本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第 1 章　本製品について

この章では、本製品の特長、各部の名称について説明しています。

第 2 章　本製品の取り付け／取り外し

この章では、マネジメントブレードのシャーシへの取り付け／取り外し手順、および初期設定について説明しています。

第 3 章　対応ソフトウェアについて

この章では、マネジメントブレードに対応しているソフトウェアについて説明しています。

第 4 章　Web UI について

この章では、マネジメントブレードでブレードサーバシステムを管理／運用するための Web UI（ウェブユーザインタフェース）について説明しています。

第 5 章　CLI について

この章では、マネジメントブレードでブレードサーバシステムを管理／運用するための CLI（コマンドラインインタフェース）について説明しています。

第 6 章　技術情報

この章では、マネジメントブレードの仕様および運用上の留意点について説明しています。

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、シャーシまたはサーバブレードに添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解された上で本製品をお使いください。
また、『安全上のご注意』およびマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

データのバックアップについて

本装置に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。
データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

⚠	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
⃠	⃠で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
❗	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
         ↑   ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。
- 使用する OS が Windows または MS-DOS の場合は、コマンド入力を英大文字、英小文字のどちらで入力してもかまいません。
- ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、［CD-ROM ドライブ］で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

  ```
  [CD-ROM ドライブ]:¥setup.exe
  ```

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例：　「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。
なお、本書ではお使いの OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記	
PRIMERGY BX300	サーバ本体、または本サーバ (ブレードサーバシステム全体を指します)	
PRIMERGY BX300 マネジメントブレード	マネジメントブレード／本マネジメントブレード／本製品	
PRIMERGY BX300 シャーシ	シャーシ	
PRIMERGY BX300 サーバブレード	サーバブレード	
PRIMERGY BX300 スイッチブレード	スイッチブレード	
Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard Edition	Windows Server 2003, Standard Edition、または Windows Server 2003	Windows
Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition	Windows Server 2003, Enterprise Edition、または Windows Server 2003	
Microsoft® Windows® 2000 Server	Windows 2000 Server	
Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server	Windows 2000 Advanced Server、または Windows 2000 Server	

■ マネジメントブレードのファームウェアについて

マネジメントブレードは、ファームウェアの版数によって Web UI ／ CLI の画面構成や設定項目が異なります。マニュアルを参照する場合は、ご利用のマネジメントブレードのファームウェアの版数に合った最新版をご使用ください。
なお、本書は V1.26 以降のバージョンに準拠して記述してあります。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、登録商標または著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2004

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

目次

第 1 章　本製品について

1.1 特長 8
1.2 名称と働き 9

第 2 章　本製品の取り付け／取り外し

2.1 作業を始める前に 12
2.2 取り付け／取り外し 13
2.3 初期設定 14
2.3.1 管理ソフトについて 14
2.3.2 通信インタフェースの設定 14
2.3.3 管理ユーザの設定 17
2.3.4 ブレードサーバにおける時刻管理について 18
2.3.5 各種の設定値について 19
2.3.6 マネジメントブレード運用時の注意事項 19

第 3 章　対応ソフトウェアについて

3.1 対応ソフトウェアについて 22

第 4 章　Web UI について

4.1 Web UI 26
4.1.1 スタート画面 27
4.1.2 設定項目メニュー 28
4.1.3 システム設定ページ 30
4.1.4 System Property グループ 31
4.1.5 Management Blade グループ 45
4.1.6 Switch Blade グループ 46
4.1.7 Server Blade グループ 47

第 5 章　CLI について

5.1 CLIの使用方法 56
5.1.1 シリアルインタフェースを使用する 56
5.1.2 LAN インタフェース経由の Telnet を使用する 57
5.2 各画面の基本操作 58
5.3 マネジメントブレードの起動およびログオン 59

5.4 マネジメントブレードの各操作方法 61
5.4.1 コンソールメニュー 61
5.4.2 Management Agent 62
5.4.3 Console Redirection 112
5.4.4 Logout 114
5.4.5 Reboot 115

第 6 章　技術情報

6.1 仕様 118
6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項 119
6.2.1 リモート電源切断について 119
6.2.2 graceful シャットダウン機能について 119
6.3 留意事項. 120

第 1 章

本製品について

この章では、本製品の特長、各部の名称について説明しています。

1.1　特長 8
1.2　名称と働き 9

1.1 特長

本製品は、シャーシ内の電源状態／温度状態／システムファン状態の各種監視および制御を行います。また、LAN ポートを持ち、遠隔地からも状態監視／制御が可能です。

■ マネジメントブレードの特長

- 専用の CPU、LAN インタフェース、シリアルインタフェースを装備しているため、各ブレードの状態（ハング状態など）に依存せず動作が可能です。
- シャーシにマネジメントブレードを 2 台搭載することにより、管理機能を冗長化できます。マネジメントブレードの冗長運転時は、万一マネジメントブレードに故障が起きても電源を入れたまま交換できます。
- Web ブラウザとコマンドラインの 2 つの管理ツールをサポートし、シャーシを簡単に管理できます。
- SNMP をサポートし、ネットワーク上でシャーシの状態監視／制御が可能です。

■ シャーシ管理

- シャーシ内の各ブレード（サーバブレード、スイッチブレード、マネジメントブレード）、電源ユニット、システムファンユニットの状態を監視できます。
- シャーシ内に搭載されるサーバブレードのディスプレイ／キーボード／マウス切り替え機能をサポートします。

■ 各ブレード管理

- サーバブレードに対して、電源制御を行えます。
- サーバブレード、スイッチブレードに対して、コンソールリダイレクションをサポート（テキスト画面のみ）します。
- サーバブレードの BIOS 情報をマネジメントブレードに退避し、サーバブレードの交換時に復元できます。また、退避したデータをシャーシ内の他のサーバブレードへ復元できます。

本製品は、次の通信インタフェースをサポートしています。

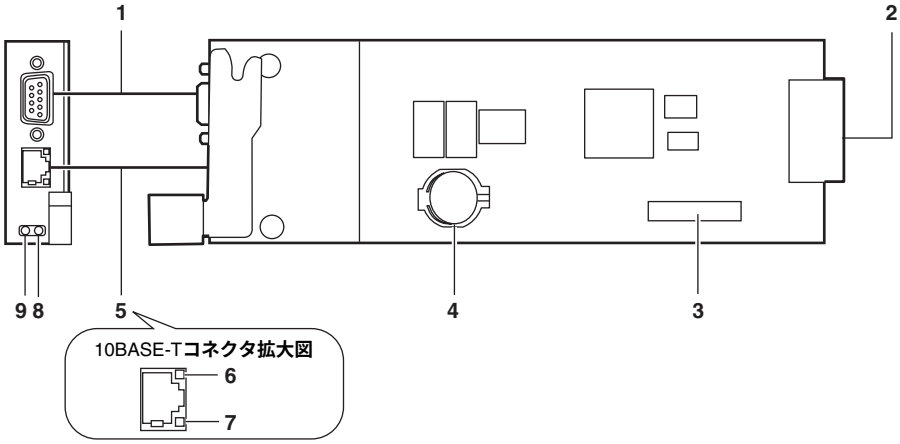
- LAN インタフェース（10BASE-T）
- シリアルインタフェース

POINT

- LAN ケーブルはオプションです。本製品には含まれません。カテゴリ 3 以上のケーブルをご使用ください。
  RS-232C クロスケーブルは、シャーシに 1 本添付されています。

1.2　名称と働き

ここでは、本製品の各部の名称と働きを説明します。



1	**シリアルポートコネクタ（9 ピン）** RS-232C クロスケーブル（シャーシに 1 本標準添付）を介して管理端末と接続します。
2	**シャーシ接続用コネクタ** シャーシに接続するためのコネクタです。
3	**ジャンパピン**
4	**リチウム電池**
5	**10BASE-T コネクタ** 非シールド・ツイストペア（UTP）ケーブルを接続します。
6	**LAN アクティブランプ** 点滅（Amber）：データ転送中。 ※マネジメントブレードの NIC 診断機能により、一定間隔で点滅することがあります。
7	**LAN リンクランプ** 点灯（Green）：リンク確立中。

8　マネジメントブレードマスタ表示ランプ

ランプの状態	マネジメントブレードの状態
点灯（Green）	マスタモードで動作中
消灯	スレーブモードで動作中

9　マネジメントブレード異常ランプ

ランプの状態	マネジメントブレードの状態
点灯（Amber）	マネジメントブレードに異常があります（マネジメントブレードの非冗長構成時）。
点滅（Amber）	マネジメントブレードに異常があります（マネジメントブレードの冗長構成時）。
消灯	異常が検出されていません。

このランプが点灯／点滅時は、担当保守員または装置管理者に連絡してください。

POINT

- マネジメントブレードを再起動させたり動作モードを変更した場合に、マネジメントブレード異常ランプが一時的に点灯や点滅しますが、しばらくして消灯すれば異常ではありません。

第 2 章

本製品の取り付け／取り外し

この章では、マネジメントブレードのシャーシへの取り付け／取り外し手順、および初期設定について説明しています。

2.1　作業を始める前に 12
2.2　取り付け／取り外し 13
2.3　初期設定 14

2.1 作業を始める前に

マネジメントブレードをシャーシに取り付け／取り外しをする場合には、作業を始める前にあらかじめ以下の準備を行ってください。

■ 用意するもの

作業を始める前に、以下のものをご用意ください。

- マネジメントブレード
- PRIMERGY ドキュメント & ツール CD
- 管理端末（パソコン等）

POINT

- 管理端末には一般的な Web ブラウザやターミナルソフトウェアが動作する環境が必要です。また、通信インタフェースとして LAN ポートまたはシリアルポートが必要になります。

2.2 取り付け／取り外し

マネジメントブレードの取り付け／取り外しは、『ハードウェアガイド シャーシ編』を参照してください。

⚠ 注意

- マネジメントブレードはシャーシを常時監視するため、シャーシの電源ケーブルが接続された時点から１分程度で起動してブレードシステムの管理を開始します。

重 要

- マネジメントブレードを冗長構成で使用するときは、必ずマネジメントブレードのファームウェアの版数を同一にしてください（ファームウェアの更新中を除く）。

2.3 初期設定

マネジメントブレードの運用を開始する前に、いくつか設定を行う必要があります。

2.3.1 管理ソフトについて

マネジメントブレードは、Web UI（ウェブユーザインタフェース）と CLI（コマンドラインインタフェース）と呼ばれる管理ツールをサポートしています。管理端末から、これらの管理ツールを用いてブレードサーバのシャーシおよび各ブレードの管理を容易に行えます。

- Web UI は、LAN 経由で Web ブラウザを通じての運用／管理を行います。
- CLI は、シリアルポートまたは LAN 経由の Telnet を用いたコンソールメニュー上でコマンドラインベースでの運用／管理を行います。

2.3.2 通信インタフェースの設定

お使いになる管理ツールと通信手段に応じて、以下の手順で通信インタフェースの必要な設定を行います。

- Web UI または Telnet 経由の CLI を使用する場合
  →「■ LAN インタフェースの設定」（P.15）
- シリアルインタフェース経由の CLI を使用する場合
  →「■ シリアルインタフェースの設定」（P.16）

POINT

- 初期設定ではデフォルトユーザ設定のユーザ名「root」、パスワード「root」で各管理ツールにアクセスしてください。パスワードの大文字・小文字は区別されます。

■ LAN インタフェースの設定

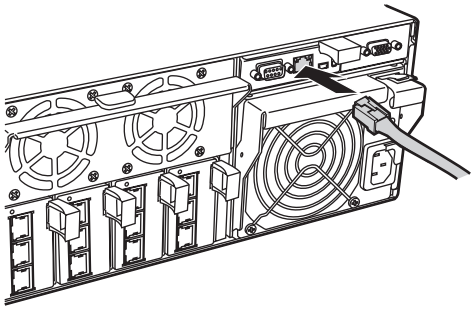
LAN インタフェースの設定手順は、以下のとおりです。

重 要

- マネジメントブレードの LAN インタフェースは、10Mbps 全二重固定のため、接続するハブやルータのポートは必ず 10Mbps 全二重固定に設定してください。オートネゴシエーションや 10Mbps 半二重設定の場合は、コリジョンが発生し、通信効率が著しく低下します。

1 管理端末とマネジメントブレードを、ご使用のネットワークに合わせて LAN ケーブルで接続します。

1. LAN ケーブルをマネジメントブレードに接続します。
   LAN ケーブルのコネクタを、マネジメントブレードの 10BASE-T コネクタに接続します。



2. LAN ケーブルをハブやルータなどに接続します。
   もう片方のコネクタを、管理端末と接続されたハブやルータなどに接続します。

重 要

- マネジメントブレードの LAN ポートは 10Base-T 全二重固定です。同一ネットワーク内で速度の異なるポートと接続すると、LAN の転送性能が低下する場合があります。たとえば、IGMP 機能のないハブを使用してブロードキャストやマルチキャスト通信を行う場合は、一番速度の遅いポートに全体の速度が合わせられます。
  ネットワークの接続を行う場合には、この問題を考慮して構築を行ってください。
- マネジメントブレードを冗長構成で使用する場合は、LAN ケーブルをハブなどを介してマスタとスレーブの両方のマネジメントブレードに接続してください。マスタのマネジメントブレードに重大な障害が起きた場合に、スレーブからマスタに切り替わったマネジメントブレードにおいて自動的に通信経路を変更するため、LAN インタフェース経由の管理／運用を接続の変更をせずに続行することができます（通信経路の変更には約 30 秒かかります）。ただし、マネジメントブレードの NIC 故障や LAN ケーブルの切断などにより LAN インタフェースによる通信が行えなくなった場合は、マネジメントブレードのマスタの切り替えは行われないので、LAN インタフェース経由の管理／運用は行えなくなります。この場合においても LAN インタフェース経由の管理／運用を続行する必要がある場合は、「● 9. NIC Status Detection（1_3_9）」（→ P.85）を参照して LAN インタフェースのステータス監視機能を有効にしてください。マスタを強制的に切り替えることにより、管理／運用を続行できます。

2 管理端末から Web ブラウザを起動します。

サポートする Web ブラウザは「4.1 Web UI」（→ P.26）を参照してください。

3 Web ブラウザからマネジメントブレードの Web UI にアクセスします。

初期設定ではデフォルト値（IP アドレス 192.168.1.1 ／サブネットマスク 255.255.255.0）を使用してアクセスしてください。

アクセス方法は「4.1 Web UI」（→ P.26）を参照してください。

4 表示されたマネジメントブレードのホームページの設定項目メニューで［System Property］→［LAN Interface］の順にクリックして、LAN インタフェースの設定を行います。

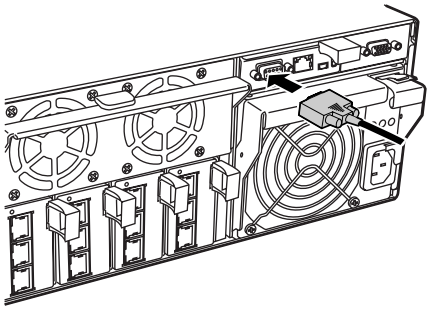
設定方法は「● LAN Interface」（→ P.38）を参照してください。

■ シリアルインタフェースの設定

1 管理端末とマネジメントブレードを、シャーシに添付された RS-232C クロスケーブルで接続します。

1. RS-232C クロスケーブルをマネジメントブレードに接続します。

   RS-232C クロスケーブルのコネクタを、マスタモードで動作しているマネジメントブレードのシリアルポートに接続します。



2. RS-232C クロスケーブルを管理端末に接続します。

   もう片方のコネクタを、管理端末のシリアルポートに接続します。

⚠ 注意

- 管理端末は、マスタモードで動作しているマネジメントブレードに接続してください。スレーブモードで動作しているマネジメントブレードのシリアルポートからは、CLI には接続できません。マネジメントブレードの動作モードは、マネジメントブレードマスタ表示ランプで確認してください（→「1.2 名称と働き」（P.9））。

2 管理端末でターミナルソフトウェアを起動し、マネジメントブレードに接続できるように設定します。

設定方法は「5.1.1 シリアルインタフェースを使用する」（→ P.56）を参照してください。

2.3.3 管理ユーザの設定

マネジメントブレードにはデフォルトで管理者権限を持つユーザ名「root」、パスワード「root」が設定されています。
セキュリティ確保のために、パスワードは必ず変更してください。

■ Web UI からのパスワードの変更

1 管理端末から Web UI にアクセスします。

2 ［System Property］→［User Accounts］の順にクリックします。
「User Accounts」ページが開きます。

3 ［root］をクリックします。
ユーザ名：root の「Account」ページが開きます。

4 以下の項目を入力し、［Apply］ボタンをクリックします。
・Password：新しいパスワードを入力します。
・Confirm Password：新しいパスワードを再度入力します。

■ CLI からのパスワードの変更

1 管理端末から CLI にログオンします。

2 「（1）Management Agent」→「（6）Username And Password」の順に移動します。
（1）の「root」を選択します。

3 以下の画面で（2）の「Change Password」を選択して、パスワードを変更します。

```
+-----------------------------------------------+
|        Edit Username And Password      page_1_6_2       |
+-----------------------------------------------+
(1) Change Username : root
(2) Change Password : ***
(3) User Permission : administrator
Enter selection or type (0) to quit:
```

POINT

- パスワードは最長 16 文字まで設定できます。また、大文字と小文字は区別されます。

2.3.4 ブレードサーバにおける時刻管理について

初期設定時には、マネジメントブレードの時刻／タイムゾーンの確認・設定を行う必要があります。確認・設定は、Web UI（→「● System Information」（P.42））、CLI（→「■ Agent Information（1_1）」（P.63））で行います。
その際は以下のことに注意してください。

■ サーバブレードとマネジメントブレードの時刻同期

シャーシに搭載されるサーバブレードの時刻は、BIOS セットアップユーティリティにおいて「Sync RTC with Mgmt. Blade」を有効にすることによりマネジメントブレードと時刻の同期をさせることができます（ご購入時設定値は有効）。
この機能により、シャーシに搭載される複数のサーバブレードとマネジメントブレード間で時刻を同期させることができます。
→『ユーザーズガイド 第 9 章 ハードウェアの設定／各種ユーティリティ』

■ マネジメントブレードのネットワーク経由の時刻合わせ

- サーバブレードに精度の高いシステム時間を要求される等で、サーバブレードとマネジメントブレードとの間で時刻同期を行いたくない場合には、「Sync RTC with Mgmt. Blade」を無効に設定してください。その場合は、サーバブレードのシステム設計に、ネットワーク経由の時刻合わせの仕組み（NTP など）を取り入れてください。

マネジメントブレードは、ネットワーク経由の時刻合わせの仕組みとして NTP をサポートしています。Web UI（→「• NTP」（P.40））、CLI（→「● 18. Agent NTP（1_1_18）」（P.72））で設定します。この機能を使用する場合は、ブレードサーバの運用開始前または運用停止中に設定および確認を完了してください。

重 要

- ブレードサーバの運用中に NTP の設定を変更しないでください。サーバブレードとマネジメントブレードの時刻同期の機能により、サーバブレードの OS 等のシステムに不具合を生じるおそれがあります。

2.3.5　各種の設定値について

マネジメントブレードを運用するため、管理ツール上で設置環境に合うように設定を行ってください。

⚠ 注意

- マネジメントブレードで行った各種の設定値は、画面のハードコピーやメモなどで退避を行ってください。設定の復元時や保守時などに必要になります。

2.3.6　マネジメントブレード運用時の注意事項

マネジメントブレードの運用について、以下の注意事項があります。

■ マネジメントブレードの冗長機能について

マネジメントブレードをシャーシに 2 枚搭載すると、管理機能を冗長化できます。
マネジメントブレードは冗長構成の場合、1 枚がマスタモード、もう 1 枚がスレーブモードで動作します。通常時は、マスタモードのマネジメントブレードがシステムの管理・運用を行います。スレーブモードのマネジメントブレードはマスタを常に監視しています。
万一マスタに故障が起きた場合、それをスレーブが検出してマスタモードに切り替わり、運用を停止することなく管理・運用機能を引き継ぎます。

重 要

- マネジメントブレードを冗長構成で使用するときは、必ずマネジメントブレードのファームウェアの版数を同一にしてください（ファームウェアの更新中を除く）。

POINT

- マネジメントブレードは、特に異常がない限り、電源ケーブルを接続した直後はスロット 1 に取り付けられているものがマスタとして動作します。
  万一、マネジメントブレードの故障などでマスタの切り替えが起こった場合、サーバブレードの KVM の選択や LAN インタフェースの接続（Web UI、Telnet など）はいったん解除されます。操作を続ける場合は、マネジメントブレードのマスタ切り替え動作が終了したあと、再度操作を行ってください。

第 3 章

対応ソフトウェアについて

この章では、マネジメントブレードに対応しているソフトウェアについて説明しています。

3.1　対応ソフトウェアについて . . . . . .　22

3.1 対応ソフトウェアについて

マネジメントブレードに対応するソフトウェアは、以下のとおりです。

- **ServerView V3.30 以降**
  ServerView 管理コンソールからブレードサーバシステムの状態監視、遠隔操作が行えます。
- **RemoteControlService V3.06 以降**
  CLI の操作を Telnet 経由で行えます。

  ServerView 管理コンソールと RemoteControlService は、シャーシとサーバブレード（シャーシ搭載出荷用を除く）に添付の PRIMERGY ドキュメント & ツール CD に添付されています。バージョンの新しい方を使用してください。
  ServerView と RemoteControlService のインストール方法については、『ユーザーズガイド』および『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

POINT

- ServerView を使用するために、マネジメントブレードに対して以下の設定を行ってください。
  - ・ServerView 管理コンソールをインストールした管理端末と、マネジメントブレードおよびサーバブレードを、LAN ネットワークで接続してください。
  - ・LAN インタフェースの設定で、IP やサブネットマスクなどの設定を行ってください。
  - ・SNMP の設定を行ってください。SNMP を「Enable」にして、SNMP のコミュニティ名は ServerView と同じになるように設定します。
  - ・［SNMP Trap Destination］に ServerView 管理コンソールをインストールした管理端末の IP アドレスを設定します。
  - ・Management Agent System Name を設定してください（推奨）。
    - - Web UI（→「● System Information」（P.42））
    - - CLI（→「■ Agent Information（1_1）」（P.63））

- **SystemcastWizard Professional V2.2 以降（オプション）**
  ブレードサーバシステムへの OS 一括インストールなどを実現するソフトウェアです。
  サーバブレードをネットワークブートさせることにより、搭載ハードディスクの IDE アレイシステムの構築および区画作成、OS インストールなどの作業をリモートの端末から実行できます。
  また、ネットワーク経由でサーバブレードの OS 実行環境をバックアップ／復元することができます。動作確認済みの OS およびアプリケーションの環境をバックアップすることにより、問題発生時にもサーバブレードの OS・アプリケーション環境の再構築が簡単にできます。

POINT

- SystemcastWizard Professional を使用するために、マネジメントブレードに対して以下の設定を行ってください。
  - ・SystemcastWizard Professional がインストールされたサーバ（デプロイメントサーバ）とマネジメントブレードおよびサーバブレードのポート 1 を LAN ネットワークで接続します。
  - ・LAN インタフェースの設定で、IP やサブネットマスクなどの設定を固定で行います。DHCP での設定は行わないでください。
  - ・SNMP の設定を行います。SNMP を「Enable」にして、SNMP のコミュニティ名を設定します。

以下の機能のために、マネジメントブレードを利用しています。

－各サーバブレードにリモートから電源投入を指示し、PXE（Preboot eXecution Environment）を起動させる。

－マネジメントブレードに格納された各サーバブレードの Deployment Configuration の構成情報を読み出し、SystemcastWizard Professional のコンピュータ管理情報として利用する。

SystemcastWizard Professional のインストール方法、利用方法などについては、SystemcastWizard Professional に添付されるオンラインマニュアルを参照してください。

第 4 章

Web UI について

この章では、マネジメントブレードでブレードサーバシステムを管理／運用するための Web UI（ウェブユーザインタフェース）について説明しています。

4.1　Web UI 26

4.1 Web UI

マネジメントブレードは Web インタフェースをサポートしており、以下の Web ブラウザからアクセスできます。

・Internet Explorer（Version 5.0、5.5 および 6.0 以降）
・Netscape（Version 4.75、4.78 および 6.x 以降（*））

*）SSL の機能を使用する場合は、Version 7.0 以降が必要になります。

マネジメントブレードに Web UI からアクセスするには、Web ブラウザを起動し、アドレスバーに以下のアドレスを入力します。<IP アドレス > にはマネジメントブレードの IP アドレスを入れてください。

- http://<IP アドレス >:< ポート番号（デフォルト：80）>（HTTP SSL が「disable」の場合）
- https://<IP アドレス >:< ポート番号（デフォルト：443）>（HTTP SSL が「enable」の場合）

ユーザ名とパスワードの入力を求めるダイアログボックスが表示されるので、入力してログオンしてください。

POINT

- ご購入時、HTTP SSL は「disable」に設定されています。
- ServerView 管理コンソールから Web インタフェースにアクセスすることもできます。アクセス方法については、『ServerView ユーザーズガイド 第 3 章 ServerView の使用方法』の「10 Blade Server View」の「■ 設定ボタン」を参照してください。

4.1.1　スタート画面

開始アドレスにアクセスし、ユーザ名とパスワードを入力して認証されると、スタート画面としてマネジメントブレードのホームページが表示されます。Web UI での設定は、この画面から始めます。
ホームページの左側には各種設定項目がエクスプローラのように表示されるメニューが、右側にはメニューから選択した項目のシステム設定ページが表示されます。

POINT

- ホームページのシステム設定ページには、各コンポーネントの状態が表示されます。状態をクリックすると、詳細ページに移動します。

ヘッダ領域には、以下のリンクが表示されます。

アイコン	説明
	このアイコンをクリックすると、該当フレームの再読み込みが行われます。
	このアイコンをクリックすると、マネジメントブレードのホームページに移動します。

4.1.2 設定項目メニュー

画面の左側に表示される設定項目メニューには、ブレードサーバシステムのシステム構成、プロパティ、システムに搭載されているブレードなどが表示されます。このページは「System Property」、「Management Blade」、「Switch Blade」、「Server Blade」の 4 つのグループに分けられています。

■ System Property グループ

このグループは、システム構成のために使用します。
→「4.1.4 System Property グループ」（P.31）

● System Event Log

ログを表示したり、アラームハンドラなどを設定します。
→「● System Event Log」（P.31）

- **Event Log**
  マネジメントブレードやサーバブレードのイベントログを表示します。
- **Alarm Handler**
  アラームハンドラを設定します。

● Environment/Maintenance

シャーシ、ファン、電源ユニットなどの環境装置について、ステータスの監視および動作の制御を行います。
また、マネジメントブレードに関して再起動の設定を行います。
→「● Environment/Maintenance」（P.33）

- **Firmware Update**
  通常は使用しません。
- **Power Supply**
  電源ユニットのステータスや稼働時間などの情報を表示し、また、シャーシのメイン電源の ON/OFF、サーバブレードの電源の一斉 ON/OFF などの設定を行います。
- **UPS**
  使用しません。
- **Chassis**
  シャーシのドアステータスの表示や温度情報の表示／設定、および保守ランプの点灯指示を行います。
- **Fans**
  システムファンユニットのステータスや稼働時間などの表示／設定、ファンテストの設定を行います。
- **reboot**
  マネジメントブレードの再起動を行います。

● LAN Interface

ネットワーク構成に関する設定を行います。

→「● LAN Interface」（P.38）

- **Internet Protocol**
  IP アドレスなどの設定を行います。
- **Domain Name Server**
  DNS の設定を行います。
- **HTTP**
  HTTP のポート番号などを設定します。
- **Telnet**
  Telnet のポート番号などを設定します。
- **NTP**
  NTP の設定を行います。
- **SSL**
  SSL の設定を行います。
- **Duplex Mode**
  使用しません。

● SNMP Interface

SNMP に関する情報を設定します。

→「● SNMP Interface」（P.41）

- **SNMP Communities**
  SNMP のコミュニティ名を設定します。
- **SNMP Trap Destination**
  SNMP トラップの送信先を設定します。

● Console Redirection

コンソールリダイレクションなどに関する設定を行います。

→「● Console Redirection」（P.42）

- **KVM Switch for Local**
  KVM（キーボード／ディスプレイ／マウス）の切り替えの設定を行います。
- **Remote IP Filter for Telnet**
  Telnet 可能な IP のフィルタリングを行います。

● System Information

エージェント情報や時刻、タイムゾーン等の設定を行います。

→「● System Information」（P.42）

● User Accounts

新しいユーザの追加とパスワードの変更を行います。

→「● User Accounts」（P.43）

● Deployment Configuration

Deployment ソフトなどで使用可能な各サーバブレードのパラメータの表示／設定を行います。

→「● Deployment Configuration」（P.44）

■ Management Blade グループ

搭載されているマネジメントブレードの情報の表示を行います。
→「4.1.5 Management Blade グループ」（P.45）

■ Switch Blade グループ

搭載されているスイッチブレードの情報の表示と保守ランプの制御を行います。
→「4.1.6 Switch Blade グループ」（P.46）

■ Server Blade グループ

搭載されているサーバブレードの情報の表示と各種設定を行います。
→「4.1.7 Server Blade グループ」（P.47）

4.1.3 システム設定ページ

画面の右側に表示されるシステム設定ページでは、設定項目メニューから選択した項目の各種設定や情報の表示を行います。

システム設定ページ内では、すべてのページのヘッダ領域とフッタ領域が同じ方法で構成されています。
ヘッダ領域には、現在のページのタイトルが表示されます。
フッタ領域には、以下の情報が表示されます。

- Controller time
  マネジメントブレードの日付と時刻を確認します。

POINT

▶ 表示される日付と時刻は Web ページにアクセスしたときのものです。

また、ヘッダ領域とフッタ領域の両方に以下のリンクが表示されます。

アイコン	説明
	このアイコンをクリックすると、ヘルプファイル（英語）が表示されます。
	このアイコンをクリックすると、表示されているページの最上部に移動します。
	このアイコンをクリックすると、表示されているページの最下部に移動します。

■ システム設定ページの基本操作

- 各ページでの設定はボックスに文字や数値を入力したあと、［Apply］などのボタンをクリックすると有効になります（一部マネジメントブレードの再起動が必要な項目があります）。
- 各項目に移動するときは、メニューをクリックしてください。
- 時刻を 24 時間形式で入力する場合は、たとえば午前 6 時 30 分は「06:30」、午後 6 時 30 分は「18:30」と入力します。

重 要

- 最初にスタートページを表示させる場合以外は、アドレスバーに直接 URL を入力しての移動は行わないでください。

4.1.4　System Property グループ

System Property グループは、システム構成のために使用します。

● System Event Log

マネジメントブレードとサーバブレードのイベントログの表示と、アラームハンドラの設定を行います。マネジメントブレードのログにはシャーシに関するイベントログが含まれます。

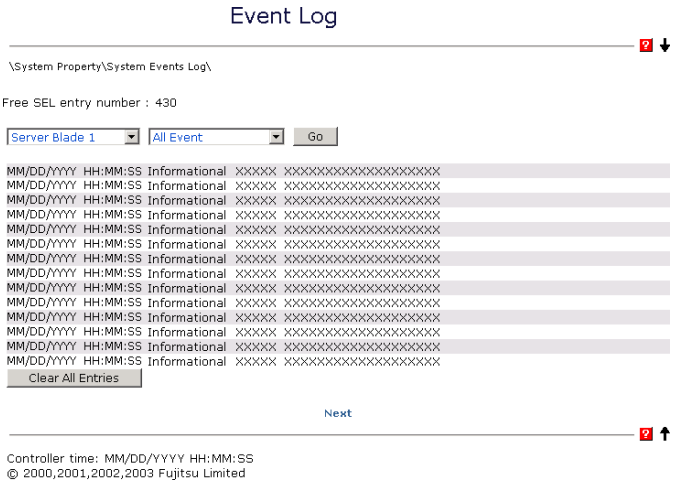
- **Event Log**

  ［Event Log］をクリックすると、以下のページが表示されます。プルダウンメニューからマネジメントブレードを選択すると、マネジメントブレードに記録されたイベントログのメッセージを確認できます。また、搭載されているサーバブレードを選択すると、そのサーバブレードに記録されたイベントログを確認できます。

  最新のイベントログが表示されます。［Next］をクリックすることによって、過去のログを順次確認することができます。

  「Free SEL entry number」で残りのイベントログの件数を確認できます。

  イベントログのエントリは、マネジメントブレードでは最大 510 件、サーバブレードでは最大 488 件まで保存できます。



イベントログの表示する内容は、プルダウンメニューの中からエラーレベルを選択することによってフィルタリングすることができます。

－ALL Event
すべてのログを表示します。

－Informational Event
システムの適切なオペレーション。システムのイベントをユーザに通知するために記録されます。

－Minor Event
重要度の低いイベントについての警告。状況が変わらなければオペレーションステータスの喪失をもたらすような、重大な問題を示しています。
必要に応じて問題を解決する必要があります。

－Major Event
重要度の高いイベントについての警告。状況が変わらなければオペレーションステータスの喪失をもたらすような、重大な問題を示しています。
できるだけ早く問題を解決する必要があります。

－Critical Event
重大な問題についての警告。これらのイベントは、問題解決されないとシステムにおける誤った操作の原因になります。

［Clear All Entries］ボタンをクリックすると、ログを消去することができます。

POINT

- **マネジメントブレードで「Management Blade Wrap Around Event Log Enable」を「disable」に設定した場合、イベントログが最大件数になると、それ以後のログは記録されません。定期的に［Event Log］でログを確認し、必要に応じてログの保存／消去を行ってください。保存は画面のテキストをコピーして行ってください。**

- **Alarm Handler**

アラームハンドラの設定全体を確認します。アラームハンドラは、システム内であるイベントが起きたとき、イベント内容を通知する電子メールを送ることができます。また、イベントログの動作を設定できます。
以下に Alarm Handler ページについて説明します。

・**Mail Settings**

ここではメール送信についての設定を行います。

表示／設定項目	説明
To	受信側の電子メールアドレスを入力します。
From	送信側の電子メールアドレスを入力します。
Host	SMTP サービスにアクセスするために使用するホストの IP アドレスかホスト名を入力します。
Subject	電子メールの件名です。件名は PRIMMAIL に固定されています。
Administrator Name	管理者の名前を入力します。これはメールの内容として送信されます。
Phone number	管理者の連絡用の電話番号を入力します。これはメールの内容として送信されます。

・**Error Forwarding**

このセクションでは、送信するイベントのフィルタを設定します。アラームハンドラでは、アラームグループとエラーレベルで送信するアラームをフィルタできます。

－Error Forwarding Level

エラーレベルのフィルタにより、指定したレベルより重要度の低いアラームを送信しないようにすることができます。

・**Server Blade Power On/Off Event Log Enable**

サーバブレードの電源 ON/OFF やシャットダウンについて、マネジメントブレードのイベントログに記録するかどうか設定します。

－enable

サーバブレードの電源 ON/OFF やシャットダウンに関するイベントログを記録します。

－disable

サーバブレードの電源 ON/OFF やシャットダウンに関するイベントログを記録しません。

重 要

▶ この設定を「enable」にすると、イベントログが記録される件数が多くなります。イベントログの残りの件数に注意して、最大件数を超えないようにしてください。

- **Management Blade Wrap Around Event Log Enable**

マネジメントブレードのイベントログがいっぱいになったときのログ動作を設定します。

－Enabled（デフォルト値）

イベントログがいっぱいになった場合、古いログから順番に上書きします。

－ Disabled

イベントログがいっぱいになった場合、ログ動作を停止します。

● Environment/Maintenance

温度（Temperature）、電源（Power Supply）、ファン（Fans）、フロント／リアファンユニットの状態（Door Status）に関する情報を確認します。また、温度異常、ファン故障時のアクションを設定することができます。

マネジメントブレードの再起動の指示を行うことができます。

- **Firmware Update**

通常は使用しません。

- **Power Supply**

  電源ユニットの温度、内蔵ファン、稼動時間などの情報の表示と ON ／ OFF などの制御を行います。
  以下に Power Supply ページについて説明します。

表示／設定項目	説明
Power Switch	電源ユニットの電源状態（メイン電源）を制御します。使用する場合は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」（→ P.119）を参照してください。 ・ON：シャーシのメイン電源を入れます。 ・OFF：シャーシのメイン電源を切ります。 ・graceful シャットダウン：搭載されている各サーバブレードに対して「－ off」（→ P.49）を指示してからメイン電源を切ります。 注意事項： ▶ この機能を使用する場合は、搭載されるサーバブレードに対して各種の対応が必要になります。詳細は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」（→ P.119）を参照してください。対応していないサーバブレードに対してこの操作を行った場合には、ACPI シャットダウンや電源切断など予期しない動作をするおそれがありますので、選択しないでください。 以下のチェックボックスをオンにすると、graceful シャットダウンが失敗した場合に強制的に電源を切るように設定できます。 ☐ When graceful shutdown fail, force power off after X minutes. （X は 1 ～ 7 分が選択できます。）
Group Status	電源ユニット全体の状態を表示します。 ・ok：電源ユニットは正常に動作中です。 ・degraded：電源ユニットに問題が起こっています。 ・critical：電源ユニットに重大な問題が起こっています。
Redundancy Units	冗長電源ユニットの数を表示します。
Power Supply Unit 1/2	電源ユニットスロット 1、2 に搭載されている電源／ダミー電源ユニットの各ステータスを表示します。
Server Blade Power Switch	搭載されているすべてのサーバブレードの電源を制御します。 ・Turn on all server blades：搭載されているすべてのサーバブレードの電源が順次入ります。 ・Turn off all server blades：この項目を選択して［Apply］ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。そこで［YES］ボタンをクリックすると、搭載されているすべてのサーバブレードの「Power Status」に対して順次「off」が指示されます（サーバブレードの「Power Status」に関しては「・Power Status」（→ P.49）を参照してください）。 重要： ▶ この項目でサーバブレードの電源制御を行う場合は、指示を行ったあとに電源の ON/OFF がすべて完了したことを Web UI のアイコンなどで確認してから次の操作に進んでください。

POINT

▶ シャーシのメイン電源を入れると、スイッチブレードとシステムファンが動作を開始します。サーバブレードには電源の通電は行われますが、電源投入指示を別途行わない限り起動しません。

●電源ユニットの定期交換について

重 要

- 電源／ダミー電源ユニットは定期交換部品です（→『ハードウェアガイド シャーシ編』）。定期交換後は設定の変更を行ってください。

表示／設定項目	説明
Live Time	電源／ダミー電源ユニットの動作時間（hrs）を表示します。 電源／ダミー電源ユニットを交換したら、［Reset］ボタンをクリックしてこの値を 0 に設定してください。
Live Time Limited Count	電源／ダミー電源ユニットの寿命時間を表示します。

- **UPS**

  通常は使用しません。設定を行わないでください。

- **Chassis**

シャーシとフロントファンユニット、リアファンユニットの情報を表示します。また、シャーシ内の温度表示と温度異常時のアクションを設定することができます。
以下に Chassis ページについて説明します。

表示／設定項目	説明
Chassis Product Version	シャーシのプロダクトバージョンを表示します。
System Information	システム情報
Overall Status	システム全体のステータスを表示します。
System LED	システム識別灯表示機能として、シャーシの保守ランプの状態を制御します。 ・on：シャーシ前面と背面の保守ランプを点灯させます。 ・off：シャーシ前面と背面の保守ランプを点灯させません。 ・blinking：シャーシ前面と背面の保守ランプを点滅させます。
Door Status	ドアステータス
Sensor ID	対象となるファンユニットを表示します。 ・Front Panel：フロントファンユニットです。 ・Rear Panel：リアファンユニットです。
Status	ファンユニットの状態を表示します。 ・open：ファンユニットが取り外されています。 ・close：ファンユニットが挿入されています。
Ambient Temperature	環境温度
No	各温度センサの番号を表示します。
Status	各温度センサの状態を表示します。
Designation	各温度センサの場所を表示します。 ・Housing-Left, Center, Right：シャーシの左側、中央、右側（シャーシ前面視） ・Ambient：フロントファンユニット内部 ・Switch-1 ～ 4：スイッチブレード内部
Temperature	各温度センサで測定した温度を表示します。
Warning Level	警告する温度を表示します。
Critical Level	危険温度を表示します。
Reaction	温度が危険（Critical Level）な値に達した場合に対するアクションを表示します。

各センサに対して以下のアクションを設定します。

－continue

温度異常時にもサーバを継続稼動させます。

－shutdown-and-poweroff

温度が危険（Critical-Level）な値に達すると、シャーシのメイン電源の graceful シャットダウンを行います。

POINT

- シャーシの保守ランプは、「System Overall Status」が「error」または「critical」状態のときは、「on」を指示しても点滅します。

- **Fans**

ファンの状態の表示とファン故障時のアクションを設定します。
以下に Fans ページについて説明します。

表示／設定項目	説明
ID	各ファンの番号を表示します。
Status	各ファンのステータスを表示します。
Designation	各ファンの場所を表示します。 ・Front-Fan-1 ～ 5：フロントファンユニット内蔵ファン ・Rear-Fan-1 ～ 2：リアファンユニット内蔵ファン ・PowerUnit1, 2-Fan-1 ～ 3：電源ユニット内蔵ファン（1：電源冷却用ファン、2 と 3：リア部システムファンユニット）
Normal Revolutions	各ファンの回転数を表示します。
Reaction	各ファンが異常になった場合のアクションを表示します。

各ファンに対して以下のアクションを設定します。

－continue

ファン故障時にもサーバを継続稼動させます。

－shutdown-and-poweroff

ファンが異常になった場合に、シャーシのメイン電源の graceful シャットダウンを行います。

・Fans Test

ファン故障の予兆監視のための、ファンの動作テストに関する設定を行います。

・Daily test time

－hour : minute

1 日のうちでファンの動作テストを行う時刻を、「時 : 分」で設定します。
時間は 24 時間形式で入力します。

－disabled

ファンの動作テストは行いません。

☐ Fan test at every start-up

チェックすると、メイン電源を入れるたびにファンの動作テストを行います。

・Fans Live Time Counter

システムファンユニットの動作時間と寿命時間の表示／設定を行います。

表示／設定項目	説明
Front/Rear fans	フロント／リアファンユニットの動作時間（hrs）を表示します。 フロント／リアファンユニットを交換したら［Reset］ボタンをクリックしてこの値を 0 に設定してください。
Front/Rear fans limited count	フロント／リアファンユニットの寿命時間を表示します。

重 要

▶ **システムファンユニットは定期交換部品です（→『ハードウェアガイド シャーシ編』）。定期交換後は設定の変更を行ってください。**

- **reboot**

  マネジメントブレードを再起動します。

  ［Reset Management Blade］ボタンをクリックすると、マネジメントブレードが再起動します。

POINT

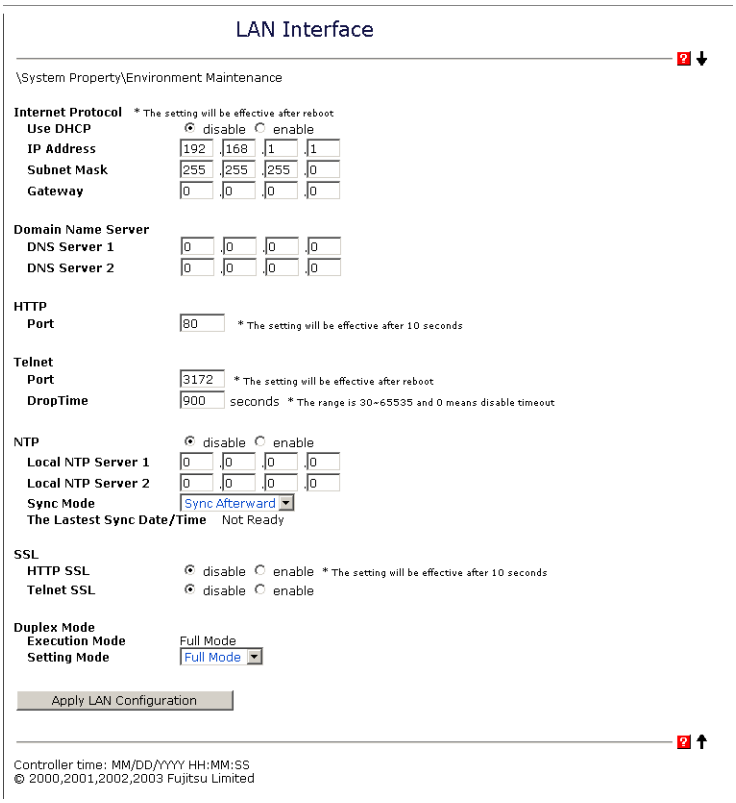
- マネジメントブレードの再起動を行うと、サーバブレードの KVM の選択や LAN インタフェースの接続（Web UI、Telnet など）はいったん解除されます。操作を続ける場合は、マネジメントブレードの起動が終了したあと、再度操作を行ってください。
- マネジメントブレードの再起動を行っても、メイン電源およびサーバブレードの電源状態は保持されます。
- マネジメントブレードが冗長構成の場合に再起動を行うと、マスタとスレーブが切り替わります。その間の 30 秒間は LAN インタフェースによる通信ができません。
- 冗長構成時に片側のマネジメントブレードが故障している場合は、再起動は行えません。故障しているマネジメントブレードを交換してください。

● LAN Interface

マネジメントブレードは、Web サーバ、Telnet、SMTP、DNS、NTP、SSL などのネットワークサービスの機能を持っています。

このページではネットワーク構成の設定を行います。

［Apply LAN Configuration］ボタンをクリックすると、設定が反映されます。一部マネジメントブレードの再起動が必要になるものがあります。



- **Internet Protocol**

  IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DHCP の設定を行います。

表示／設定項目	説明
Use DHCP	DHCP を使用して IP などを取得するかどうかを設定します。 ・enable：DHCP を使用します。 ・disable：DHCP を使用しません。
IP Address	マネジメントブレードの IP アドレスを設定します。 設定必須 デフォルト値：192.168.1.1
Subnet Mask	サブネットマスクを設定します。 設定必須 デフォルト値：255.255.255.0
Gateway	ゲートウェイの IP アドレスを設定します。

POINT

- ここでの設定は、マネジメントブレードの再起動後に有効になります。

- **Domain Name Server**

  Domain Name Server（DNS）の設定を行います。

表示／設定項目	説明
DNS Server 1	プライマリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。
DNS Server 2	セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。

- **HTTP**

  ポート番号の設定を行います。

表示／設定項目	説明
Port	HTTP インタフェースのポート番号を設定します。 デフォルト値：80

POINT

- Port の設定は変更してから約 10 秒後に有効になります。

- **Telnet**

  ポート番号および Drop Time の設定を行います。

表示／設定項目	説明
Port	Telnet のポート番号を設定します。 デフォルト値：3172
Drop Time	休止状態の Telnet 接続が自動的に切れるまでの時間（秒）を設定します。 設定できる範囲は 30 ～ 65535 です。0 を設定すると自動切断機能が無効になります。 また、設定した値は CLI 上の「Management Agent Timeout(Sec)」と共通になります。

POINT

- Telnet のポート番号の変更は、マネジメントブレード再起動後に有効になります。

- **NTP**

  設定の有効・無効と NTP サーバの設定を行います。

表示／設定項目	説明
NTP	NTP（Network Time Protocol）を使用して、マネジメントブレードの時刻合わせを行うかどうかを設定します。NTP を有効にすると、マネジメントブレードの時刻を 15 分ごとに NTP サーバと同期させます。 ・ enable：NTP を使用します。 ・ disable：NTP を使用しません。
Local NTP Server 1	プライマリ NTP サーバの IP アドレスを設定します。
Local NTP Server 2	セカンダリ NTP サーバの IP アドレスを設定します。
Sync Mode	時刻の同期モードを指定します。 ・ Sync Afterward NTP サーバの時刻が進んでいるときだけ、マネジメントブレードの時刻を合わせます。データベースなど時間関係に注意を要する用途で使用している場合には、このモードを選択してください。 ・ Sync Always マネジメントブレードの時刻を 15 分ごとに、NTP サーバと同期します。
The Lastest Sync Date/Time	マネジメントブレードと NTP サーバが時刻同期を行った最新の時刻を表示します。

重 要

- 間違った IP アドレスを入力すると、時刻合わせが行われませんので注意してください。
- NTP を有効に設定した場合は、「The Lastest Sync Date/Time」で時刻の同期が行われているかどうかを必ず確認してください。設定直後は、表示に時間がかかる場合がありますので、フレームの再読み込みボタンを数回押して表示を確認してください。

- **SSL**

  SSL の使用設定を行います。SSL バージョン 3 をサポートします。

表示／設定項目	説明
HTTP SSL	HTTP SSL を使用するかどうかを設定します。 ・ enable：HTTP SSL を使用します。 ・ disable：HTTP SSL を使用しません。
Telnet SSL	Telnet SSL を使用するかどうかを設定します。 ・ enable：Telnet SSL を使用します。 ・ disable：Telnet SSL を使用しません。

重 要

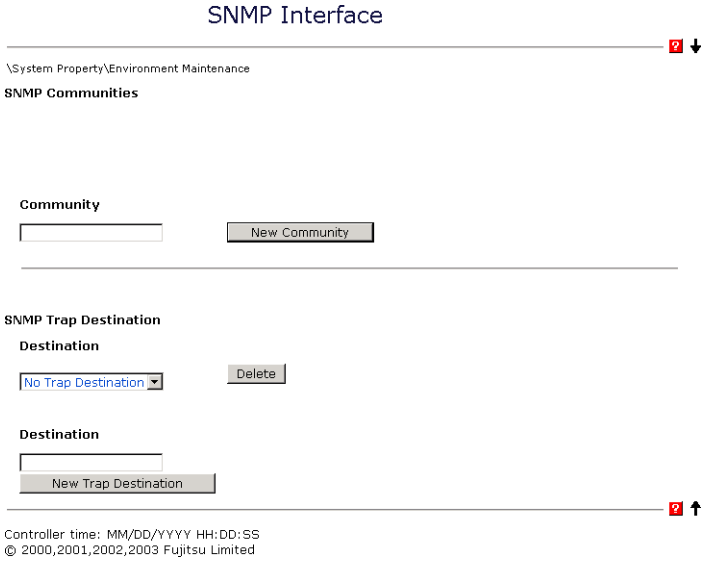
- SSL を使用するためには、Web ブラウザや端末エミュレータで SSL バージョン 3 のみを有効にする必要があります。また、Web ブラウザで SSL バージョン 2 が有効になっている場合は無効に変更してください。

- **Duplex Mode**

  使用しません。設定を変更しないでください。

● SNMP Interface

SNMP のコミュニティ名とトラップの送信先を設定します。



- **SNMP Communities**

  SNMP のコミュニティ名の追加／削除を行います。
  設定されたコミュニティ名がある場合、表示されているコミュニティ名の横のチェックボックスにチェックを入れたあとに［Apply］ボタンをクリックすると、そのコミュニティ名を削除することができます。

  - **Community**

    新しい SNMP のコミュニティ名を入力して［New Community］ボタンをクリックすると、新しい SNMP のコミュニティ名が追加されます。最大 5 個までのコミュニティを登録できます。

    POINT

    ▶ ServerViewやSystemcastWizardなどのSNMPで通信を行うアプリケーションを使用する場合には、コミュニティ名の設定が必須になります。通信可能なコミュニティ名を設定してください。

- **SNMP Trap Destination**

  SNMP トラップの送信先の追加と削除を行います。

  - **Destination**

    SNMP トラップの送信先の削除を行います。
    プルダウンメニューから選択して［Delete］ボタンをクリックすると、SNMP トラップの送信先を削除できます。

  - **Destination**

    SNMP トラップの送信先の追加を行います。
    SNMP トラップの送信先アドレスを入力して［New Trap Destination］ボタンをクリックすると、新たな SNMP トラップの送信先を設定できます。IP アドレス（例：192.168.1.2）を入力します。最大 5 個までの送信先を登録できます。

● Console Redirection

Telnet のフィルタリングの設定と KVM の切り替えを行います。

- **Keyboard/Mouse/Video（KVM）Switch for Local**

  シャーシに接続されるキーボード／ディスプレイ／マウスをどのスロットのサーバブレードが使用するかを切り替えます。

  ・**Select KVM**

  搭載されているサーバブレードの一覧が表示されるので、シャーシに接続されるキーボード／ディスプレイ／マウスを使用したいサーバブレードを選んで、［Apply］ボタンをクリックしてください。

- **Remote IP Filter For Telnet**

  Telnet 接続を許可する IP のフィルタリングが行えます。最大 10 個の IP アドレスまで登録可能です。

  ボックスの中には接続を許可している IP アドレスが表示されます。

  ・**IP フィルタの削除**

  ボックスの中に登録されている IP アドレスを選択し、［Delete］ボタンをクリックすると、登録されている IP アドレスを削除できます。

  POINT

  ▶ IP フィルタリングを行わない設定として、255.255.255.255 がデフォルトで登録されています。フィルタリングを行う場合は必要に応じて削除してください。

  ・**New Allowed IP**

  IP フィルタの登録を行います。

  接続を許可する IP を入力して［Add］ボタンをクリックすると登録できます。IP アドレス（例 . 192.168.1.2）を入力します。最大 10 個まで登録することができます。

● System Information

SNMP エージェント情報の設定とマネジメントブレードの時刻／タイムゾーンの設定を行います。

- **Agent Information**

  SNMP エージェント情報の設定を行います。

表示／設定項目	説明
Name	SNMP で装置を識別するために、マネジメントブレードのシステム名を設定します。 ServerView を使用する場合は設定してください（推奨）。
Location	SNMP での装置の管理作業のため、マネジメントブレードのロケーション（設置場所）を設定します。
Contact	SNMP での装置の管理作業のため、連絡先（コンタクト）を設定します。

- **Daylight Saving Time**
  使用しません。設定を行わないでください。
- **Controller Time**
  マネジメントブレードの時刻を設定します。

表示／設定項目	説明
（MM/DD/YYYY）	マネジメントブレードの日付を「月／日／西暦」で設定します（表示はアクセス時のものです）。
（HH:MM:SS）	マネジメントブレードの時刻を「時：分：秒」のように 24 時間形式で設定します（表示はアクセス時のものです）。

- **Time Zone**
  マネジメントブレードのタイムゾーンを設定します。

表示／設定項目	説明
Time Zone	タイムゾーンを設定します。

● User Accounts

新しいユーザ名の作成、パスワードと権限の設定、既存のユーザアカウントを削除できます。管理者権限がないとユーザに関する操作は行えません。
既存のユーザ名または［Add New User Account］ボタンをクリックすると、ユーザアカウントを変更または新規作成できる［Accounts］ページが表示されます。

POINT

- **デフォルトで管理者権限を持つユーザ名「root」（パスワード「root」）が設定されています。ユーザ名「root」のパスワードは、初期設定時に必ず変更してください。**

Accounts ページでは以下の設定を行います。

表示／設定項目	説明
Name	新しいユーザ名を設定します。
Password	パスワードを設定します。大文字・小文字は区別されます。
Confirm Password	確認のためパスワードを再度設定します。
Permissions	ユーザの権限を設定します。 ・Read Only：設定の読み取り専用です。 ・Read Write：設定の読み書きができます。 ・Administrator：管理者（root）の権限を持ちます。

ユーザの削除に関しては、「DeleteUserAccount」をチェックして［Apply］ボタンをクリックしてください。

POINT

- **ユーザ「root」は削除できません。登録できるユーザ数は「root」を含めて 10 ユーザです。**

● Deployment Configuration

搭載されている各ブレードに対して、以下の Deployment パラメータを表示／設定します。
Deployment パラメータは各種の Deployment ソフトや ServerView などで使用されます。
プルダウンメニューから搭載されているサーバブレードを選択することによって、各サーバブレードに対する Deployment パラメータを設定します。

表示／設定項目	説明
Chassis ID	シャーシの ID を表示します。
Slot ID	サーバブレードが搭載されているスロット番号を表示します。
MAC Address 1	サーバブレードの LAN ポート 1 の MAC アドレスを表示します。
MAC Address 2	サーバブレードの LAN ポート 2 の MAC アドレスを表示します。
IP Address 1	サーバブレードの LAN ポート 1 の IP アドレスを設定します。
IP Address 2	サーバブレードの LAN ポート 2 の IP アドレスを設定します。
Subnet Mask 1	サーバブレードの LAN ポート 1 のサブネットマスクを設定します。
Subnet Mask 2	サーバブレードの LAN ポート 2 のサブネットマスクを設定します。
Default Gateway 1	サーバブレードの LAN ポート 1 のデフォルトゲートウェイを設定します。
Default Gateway 2	サーバブレードの LAN ポート 2 のデフォルトゲートウェイを設定します。
Hostname	ホストネームを設定します。
MasterImageReference	マスタイメージのディレクトリを設定します。
Status of Blade	サーバブレードの現在のステータスを表示します。
Lan Status of slot	LAN ステータスを設定します。
AutomaticRecovery	オートマティックリカバリ機能を有効にするかどうか設定します。
Status of Cloning	クローニングのステータスを表示します。
OEM parameters 1-10	OEM パラメータを指定します。

重 要

- 「IP Address」、「Subnet Mask」、「Default Gateway」、「Hostname」、「MasterImageReference」等は、ServerView 等のソフトウェアにより自動的に設定されます。各種の Deployment ソフトの操作上変更が必要な場合以外は変更しないでください。

4.1.5 Management Blade グループ

搭載されているマネジメントブレードがすべて表示されます。
リンクをクリックすると、そのマネジメントブレードに対して以下の情報が表示されます。

表示／設定項目	説明
Blade Information	ブレード情報
Play Role	マネジメントブレードの動作モードを表示します。 master（マスタ）：マスタとしてシャーシ全体の管理を行っています。 slave（スレーブ）：スレーブモードとして動作し、マスタのマネジメントブレードの監視を行っています。万一マスタのマネジメントブレードに故障が起きた場合はシャーシの管理を引き継ぎます。
Manufacture	製造元を表示します。
Produce Date	製造年月日を表示します。
Serial Number	シリアルナンバーを表示します。
Product Name	製品名を表示します。
Model Name	モデル名を表示します。
MAC Address	管理用の MAC アドレスを表示します。
Firmware Version	ファームウェアの版数を表示します。
Hardware Version	ハードウェアの版数を表示します。
Change Management Role to Slave	マネジメントブレードの動作モードを変更します。通常は使用しません（冗長構成でない場合は表示されません）。
Change Management Role to Master	

4.1.6 Switch Blade グループ

搭載されているスイッチブレードがすべて表示されます。
リンクをクリックすると、そのスイッチブレードに対する以下の情報が表示されます。

表示／設定項目	説明
Located LED	スイッチブレードの保守ランプの表示を制御します。シャーシに搭載される複数のスイッチブレードを判別するために使用します。 ・blinking：スイッチブレードの保守ランプを点滅させます。 ・off：スイッチブレードの保守ランプの制御を行いません。
Blade Information	ブレード情報
Manufacture	製造元を表示します。
Produce Date	製造年月日を表示します。
Serial Number	シリアルナンバーを表示します。
Product Name	製品名を表示します。
Model Name	モデル名を表示します。
Board Version	ボードの版数を表示します。
Firmware Version	ファームウェアの版数を表示します。
Network Setting	ネットワーク設定
Mac Address	管理用の MAC アドレスを表示します。
IP Address	管理用の IP アドレスを表示します。
URL Address	スイッチブレードの Web UI の URL が表示されます。 クリックするとそのページにジャンプします（ネットワークの配線と設定が必要です）。
Reboot Switch Blade	［Reboot］ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。そこで［YES］ボタンをクリックすると、スイッチブレードが再起動します。

重 要

- スイッチブレードの表示情報を更新するには、［Reload］ボタンを押してください。ただし、スイッチブレードが起動していない場合や交換直後は、更新は行われません。

4.1.7　Server Blade グループ

シャーシに搭載されているすべてのサーバブレードが表示されます。同時にサーバブレードの電源のステータスと KVM（キーボード／ディスプレイ／マウス）のセレクト位置がアイコンで表示されています。

アイコン	説明
	サーバブレードは電源 OFF の状態です。
	サーバブレードは電源 ON の状態です。
	このサーバブレードに KVM がセレクトされていますが、電源 OFF の状態です。
	このサーバブレードに KVM がセレクトされており、電源 ON の状態です。

各サーバブレードには Recovery グループと Blade Info グループがあり、それらに属するページをクリックすると、そのサーバブレードに関するシステム設定ページが表示されます。以降の処理は、選択したサーバブレードに対して行われます。

● Recovery グループ

異常発生時のアクションや CMOS バックアップ／リストア設定、電源設定とスケジュール、ブートオプションの設定などを行います。

- **ASR**
  - **Software Watchdog**

    ServerView により設定します。
  - **Boot Watchdog**

    サーバブレードの OS 起動失敗時のアクションを設定します。サーバブレードの POST が終了してから ServerView エージェントが起動するまでの間隔を監視することにより、サーバブレードの OS 起動を監視します。サーバブレードの POST が終了してからタイムアウト時間（Watchdog Time）の間に ServerView エージェントとの通信が開始されない場合、OS 起動失敗を検出し、アクションを実行します。アクションには以下のオプションがあります。

表示／設定項目	説明
Boot Watchdog	OS 起動失敗について設定します。 ・enable：OS の起動を監視します。 ・disable：OS の起動を監視しません。
Watchdog Time	設定された時間に従い OS 起動失敗を監視します。 設定値は 2 ～ 100 分の間で段階的に設定可能です。
Watchdog Action	OS の起動が失敗した時のアクションを設定します。 ・reboot：サーバブレードを再起動します。 ・off：サーバブレードの電源を切ります。 ・power-cycle：サーバブレードの電源を切ったあと、再度電源を入れます。
Maximum Restart Retries	OS 起動に失敗した場合に何回リトライするか設定します。 ・0：リトライしません。 ・1 ～ 7 回：設定した回数リトライします。

POINT

- 「OS ブート監視」機能の有効／無効は、ServerView からも設定できます。

重 要

- サーバブレードに ServerView をインストールしていない場合は、必ず 「Disabled」に設定してください。「Enabled」に設定した場合、サーバブレードが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
- サーバブレードに ServerView をインストールしている場合にも、ServerStart CD-ROM やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する場合は、必ず「OS ブート監視」機能を無効に設定してください（初期設定は無効です）。
  「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、サーバブレードが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。
- 本機能の設定時には『ServerView ユーザーズガイド』をご覧になり、本機能の仕様と運用方法を十分ご理解の上、正しく設定してください。

- **Auto Configuration**
  - **System CMOS Configuration Backup/Restore**

    サーバブレードの BIOS セットアップユーティリティによって設定された CMOS 情報の退避／復元処理を行います。
    サーバブレードの電源を入れたあと、POST が終了するまで操作できません。その場合は「Not ready to backup/restore, now!!」が表示されます。

重 要

- 次のいずれかの操作を行った場合、必ず BIOS 情報の退避を行ってください。
  - ・本サーバブレードを初めて使用する場合
  - ・BIOS セットアップユーティリティによって情報変更を行った場合
  - ・本サーバブレードのハードウェア構成を変更した場合、具体的には、メモリの増減・変更があった場合など
  - ・BIOS 版数を更新した場合
- BIOS セットアップユーティリティによって設定される情報のみを退避／復元することができます。オンボード IDE アレイコントローラの BIOS 情報については、退避／復元できません。
- 退避／復元の結果は、マネジメントブレードのイベントログに記録されます。

表示／設定項目	説明
CMOS Backup	BIOS の CMOS 設定を退避します。

- **CMOS Restore**

BIOS の CMOS 設定を復元します。
BIOS 情報を有効にするためにはサーバブレードの再起動が必要です。必要に応じて再起動してください。

重 要

- CMOS 設定ファイルを退避したサーバブレードと復元先のサーバブレードの、タイプおよび BIOS 版数が異なる場合は、この機能は使用できません。

表示／設定項目	説明
CMOS File	マネジメントブレードに退避されている CMOS 設定ファイルを表示します。「スロット番号：MAC アドレス：退避した日付：BIOS 版数」がファイル名として付けられています。復元したい設定ファイルを選択してください。
Restore Policy	サーバブレードに BIOS の CMOS 設定を復元する場合の条件（ポリシィ）を設定します。 ・smart-restore：復元対象のサーバブレードと CMOS 設定ファイルを退避したサーバブレードの MAC アドレスとスロット番号が異なる場合は、復元の処理を中止します。 ・force-restore：復元対象のサーバブレードと CMOS 設定ファイルを退避したサーバブレードが異なる場合でも、復元を強制的に行います。 重要： ▶ CMOS 設定ファイルを退避したサーバブレードと復元先のサーバブレードのタイプが異なる場合、この機能は使用できません。

- **Power Control**
  - **Power Status**

サーバブレードの電源の制御を行います。使用する場合は、「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」（→ P.119）を参照してください。

－on
サーバブレードの電源を入れます。

－off
サーバブレード上で動作する SeverView エージェントに OS のシャットダウン指示を送り、電源を切ります。

重 要

- この機能を使用する場合は、サーバブレードに対して各種の対応が必要になります。詳細は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」（→ P.119）を参照してください。対応していないサーバブレードに対してこの操作を行った場合には、ACPI シャットダウンや電源切断など予期しない動作をするおそれがありますので、選択しないでください。

－power-cycle
サーバブレードの電源を切ったあと、再度電源を入れます。

－reset
サーバブレードを再起動します。

－NMI
通常は選択しないでください。

－force-off

サーバブレードの電源を強制的に切ります。

重 要

- サーバブレードの電源切断を指示したあと「on」を指示する場合は、サーバブレードの電源が確実に切れたことを確認してから行ってください。

・Power On/Off

サーバブレードのスケジュール運転に関する設定をします。スケジュールの指示は、マネジメントブレードから行われます。

スケジュール運転を毎日行う場合には、「Everyday」の「On Time」、「Off Time」を設定して［Everyday］をクリックしてください。

表示／設定項目	説明
On Time	・hour : minute：各曜日に対してサーバブレードの電源を入れる時刻を「時：分」で設定します。時間は 24 時間形式で入力します。 ・disabled：電源を入れる時刻を設定しません。
Off Time	・hour : minute：各曜日に対してサーバブレードの電源を切る時刻を「時：分」で設定します。時間は 24 時間形式で入力します。 ・ disabled：電源を切る時刻を設定しません。 補足： ▶ サーバブレードの電源切断は、マネジメントブレードから「off」を指示することにより行われるため、サーバブレードに対して各種の対応が必要になります。使用する場合は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」（→ P.117）を参照してください。対応していないサーバブレードに対してこの操作を行った場合には、ACPI シャットダウンや電源切断など予期しない動作をするおそれがありますので、設定を行わないでください。

・Power Setting

「Off Time」でサーバブレードに対する「off」の指示が失敗した場合に、強制的に電源を切る動作を設定します。以下のチェックボックスにチェックすると、「off」に失敗してから指定した時間が経過すると強制的にサーバブレードの電源を切ります。

☐ When power off fail, force power off after X minutes. （X は 1 ～ 7 分が選択できます。）

- **Boot Option**

  サーバブレードのブートオーダの変更を行います。

  ・**Boot Option Selected**

  OS ブート時のブート方法を設定します。

  －normal

  サーバブレードのブートオーダを、BIOS に設定されているデフォルトの設定にします。

  －pxe-lan-1

  サーバブレードのブートオーダの先頭を、LAN ポート 1 を使用して PXE（Preboot eXecution Environment）でブートするように変更します。

  －pxe-lan-2

  サーバブレードのブートオーダの先頭を、LAN ポート 2 を使用して PXE（Preboot eXecution Environment）でブートするように変更します。

  ・**Boot CPU Operating**

  サーバブレードに搭載されている CPU の動作モードを表示します。

  －Performance

  CPU は Performance モードで動作しています。

  －not-ready

  CPU は動作していません。

● Blade Info グループ

シャーシに搭載されている各サーバブレードに対して、システムボード、CPU、メモリ、電圧の各情報を表示します。

- **Blade Info**

  サーバブレードの各種情報の表示や電源ランプの制御を行います。

表示／設定項目	説明
Blade Status	サーバブレードのステータスを表示します。
Server LED	サーバブレード判別機能として、サーバブレードの電源ランプの表示を制御することができます。シャーシに搭載される複数のサーバブレードを判別するために使用します。 ・blinking：サーバブレードの電源ランプを点滅させます。 ・off：サーバブレード電源ランプの制御を行いません。
OS Type	ServerView エージェントが OS にインストールされている場合、OS のタイプを表示します。
OS Version	ServerView エージェントが OS にインストールされている場合、OS のバージョンを表示します。
Model	モデル名を表示します。
Serial Number	シリアルナンバーを表示します。
BIOS Version	BIOS の版数を表示します。
Firmware Version	BMC（Baseboard Management Controller ：ベースボード上で温度や電圧などのセンサ等を管理しているマイクロコントローラ）のファーム版数を表示します。
Hardware Version	ハードウェアの版数を表示します。

表示／設定項目	説明
Product Name	プロダクトネームを表示します。
Product Version	プロダクト版数を表示します。
Manufacture Date	製造年月日を表示します。

- **Processors**

  CPU の各種情報を表示します。

表示／設定項目	説明
No	CPU 番号を表示します。
Type	CPU のタイプを表示します。
Frequency	CPU の動作周波数を表示します。
External Clock	CPU バスの動作周波数を表示します。
CPU Step	CPU のステッピングを表示します。
Socket	CPU のソケットタイプを表示します。

- **Network Interface Card**

  LAN インタフェースに関する各種情報を表示します。

表示／設定項目	説明
No	LAN ポートの番号を表示します。
Mac Address	MAC アドレスを表示します。
IP Address	ServerView エージェントが OS にインストールされている場合、IP アドレスを表示します。

- **Memory Modules**

  メモリに関する各種情報を表示します。

表示／設定項目	説明
Memory Module No	メモリモジュールの番号を表示します。
Status	メモリのステータスを表示します。
Module Size	メモリの容量を表示します。
Type	メモリの種類を表示します。
Speed	メモリバスのスピードを表示します。
Socket Designation	メモリが搭載されているソケット位置を表示します。

- **Voltage Summary**

  サーバブレードのボード上の各種電圧と電圧しきい値の設定を表示します。

表示／設定項目	説明
No	電圧センサの番号を表示します。
Status	電圧センサの状態を表示します。
Minimum	電圧の危険下限しきい値を表示します。
Maximum	電圧の危険上限しきい値を表示します。
Nominal	電圧の公称値を表示します。
Current	電圧の現在の値を表示します。
Designation	測定している電圧の種類を表示します。

- **Temperature Summary**

  サーバブレードのボード上の各種温度と温度しきい値の設定を表示します。

表示／設定項目	説明
No	温度センサの番号を表示します。
Status	温度センサの状態を表示します。
Designation	温度センサの測定場所を表示します。
Temperature	温度の現在の値を表示します。
Warning Level	温度の警告しきい値を表示します。
Critical Level	温度の危険しきい値を表示します。

第 5 章

CLI について

この章では、マネジメントブレードでブレードサーバシステムを管理／運用するための CLI（コマンドラインインタフェース）について説明しています。

5.1　CLI の使用方法 56
5.2　各画面の基本操作 58
5.3　マネジメントブレードの起動およびログオン 59
5.4　マネジメントブレードの各操作方法 61

5.1 CLI の使用方法

ここでは、シリアルインタフェースまたは LAN 経由の Telnet を使用した CLI の使用方法について説明します。
CLI を LAN 経由の Telnet を用いて使用する場合は、以下のソフトウェアを使用することを推奨します。
・RemoteControlService V3.06 以降

5.1.1 シリアルインタフェースを使用する

1 マネジメントブレードと管理端末を RS-232C クロスケーブルで接続します。
→「■ シリアルインタフェースの設定」（P.16）

重 要

- マスタモードで動作しているマネジメントブレードに対して接続してください。スレーブモードのマネジメントブレードからはアクセスできません。
  マネジメントブレードの動作モードはマネジメントブレードマスタ表示ランプで確認してください（→「1.2 名称と働き」（P.9））。

2 管理端末でターミナルソフトウェアを起動し、以下のポート設定を行います。

設定項目	設定値
ビット／秒	115200
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし

3 管理端末でターミナルソフトウェアを［VT100］の設定にします。
設定方法については、ご使用のターミナルソフトウェアのマニュアルを参照してください。

5.1.2 LAN インタフェース経由の Telnet を使用する

1 マネジメントブレードと管理端末を LAN ケーブルで接続します。

→「■ LAN インタフェースの設定」（P.15）

2 管理端末で Telnet のクライアントソフトを起動して、マネジメントブレードの IP アドレスとポート番号を指定して接続します。

（デフォルト値　IP アドレス :192.168.1.1、サブネットマスク : 255.255.255.0、ポート番号 : 3172）

重 要

- Telnet は、マネジメントブレードに対して、同時に 1 セッションしか開けません。
- Telnet のクライアントソフトは［VT100］の設定にする必要があります。設定方法については、ご使用のクライアントソフトのマニュアルを参照してください。

5.2 各画面の基本操作

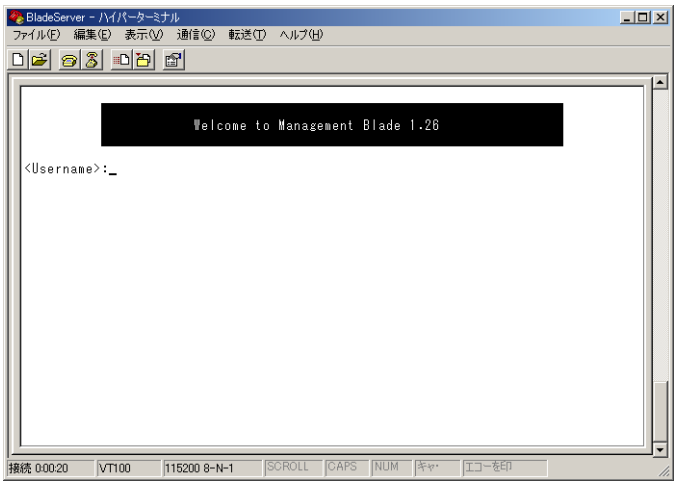
CLI の各ページでは、「Enter selection:」のあとに画面に表示されている数字を入力して【Enter】キーを押すと、情報の表示や設定、ページ間の移動が行えます。

- 設定値の入力は、「-->>」の記号のあとに、画面に表示される指示に従って数字や文字列を入力してください。
- 画面に <effect after reboot> の表示がある場合は、設定の変更後にマネジメントブレードの再起動が必要になります。
- (-) で表示されている項目は情報の表示のみで設定できません。
- 入力した文字列は、同じ入力画面で【Space】キーを押したあと【Enter】キーを押すと削除できます。
- 時刻を 24 時間形式で入力する場合は、たとえば午前 6 時 30 分は「06:30」、午後 6 時 30 分は「18:30」と入力します。

5.3　マネジメントブレードの起動およびログオン

マネジメントブレードの動作中に管理端末上でターミナルソフトウェアを起動すると、以下のようなログオン画面が表示されます。

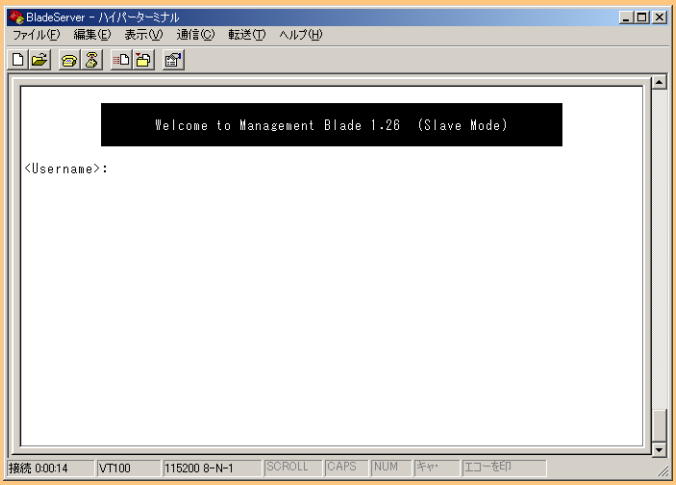
マネジメントブレードが動作していない場合は、シャーシの電源ケーブルを接続します。自己診断テストのメッセージが表示され、そのあとログオン画面が表示されます。



ここで、<Username>: ユーザ名と <Password>: パスワードを入力すると、CLI にログオンできます。

重 要

- シリアルインタフェースをスレーブモードで動作しているマネジメントブレードに接続すると、［Welcome to slave console menu］が表示され、以下のスレーブモード用のログオン画面が表示されます。



スレーブモードのマネジメントブレードから設定は行えませんので、以下のどちらかの方法でマスタモードのログオン画面を表示させてください。

・シリアルインタフェースの接続先を、マスタモードで動作しているマネジメントブレードに変更します。

・スレーブモード用のログオン画面でユーザ名とパスワードを入力してログオンすると、以下の画面が表示されます。
ここで「1. Change Role To Master」を選択して、接続しているマネジメントブレードの動作モードをスレーブモードからマスタモードに変更します。

```
+-------------------------------------------+
|          Slave Console Menu            page_root     |
+-------------------------------------------+
  (1) Change Role To Master
  (2) Logout
  Enter selection:
```

5.4　マネジメントブレードの各操作方法

CLI の各種操作方法を説明します。項目については Web UI と大部分が共通です。
項目の詳細は、「第 4 章 Web UI について」（→ P.25）も併せて参照してください。

5.4.1　コンソールメニュー

ログオンが終了すると、最初にトップ ページとしてコンソールメニューが表示されます。
ここでは、コンソールメニューについて説明します。

```
+-------------------------------------------+
|          Console Menu            Page_root          |
+-------------------------------------------+
 (1) Management Agent
 (2) Emergency Management Port
 (3) Console Redirection
 (4) TFTP update
 (5) Logout
 (6) Reboot Management Blade
 Enter selection:
```

● 1. Management Agent

ブレードサーバシステムの各種情報表示や設定を行います。
→「5.4.2 Management Agent」（P.62）

● 2. Emergency Management Port

通常は使用しません。

● 3. Console Redirection

サーバブレード、スイッチブレードのコンソールリダイレクションに使用します。
→「5.4.3 Console Redirection」（P.112）

● 4. TFTP update

通常は使用しません。

● 5. Logout

ログアウトします。
→「5.4.4 Logout」（P.114）

● 6. Reboot Management Blade

マネジメントブレードを再起動します。

→「5.4.5 Reboot」（P.115）

5.4.2 Management Agent

```
+-------------------------------------------+
|              Management Agent      page_1  |
+-------------------------------------------+

 (1)  Management Agent Information
 (2)  Management Blade
 (3)  System Information
 (4)  Server Blade
 (5)  Switch Blade
 (6)  Username And Password
 (7)  Blue Screen
 (8)  Event Log
 (9)  Set System Default
 (10) Server Blade CMOS Backup/Restore
 (11) Deployment Parameter
 (12) Power Consumption
 (13) Modem Setting
 Enter selection or type (0) to quit:
```

● 1. Management Agent Information

マネジメントブレードで動作している HTTP や SNMP などの、各種エージェントの設定を行います。

→「■ Agent Information（1_1）」（P.63）

● 2. Management Blade

マネジメントブレードの各種情報を表示します。

→「■ Management Blade（1_2）」（P.74）

● 3. System Information

システム情報の確認と設定を行います。

→「■ System Information（1_3）」（P.76）

● 4. Server Blade

サーバブレードの各種設定と情報表示を行います。

→「■ Server Blade（1_4）」（P.88）

● 5. Switch Blade

スイッチブレードの各種情報表示を行います。

→「■ Switch Blade（1_5）」（P.101）

● 6. Username And Password

ユーザの追加やパスワードの設定を行います。

→「■ Username And Password（1_6）」（P.103）

● 7. Blue Screen

通常は使用しません。

● 8. Event Log

各種イベントログの表示やクリアを行います。

→「■ Event Log（1_8）」（P.104）

● 9. Set System Default

マネジメントブレードの設定をデフォルト値に戻します。

→「■ Set System Default（1_9）」（P.106）

● 10. Server Blade CMOS Backup/Restore

サーバブレードの BIOS セットアップユーティリティによって設定された情報の、退避や復元処理を行います。

→「■ Server CMOS Backup/Restore（1_10）」（P.107）

● 11. Deployment Parameter

デプロイメント用のパラメータの各種設定と表示を行います。

→「■ Deployment Parameter（1_11）」（P.110）

● 12. Power Consumption

通常は使用しません。

● 13. Modem Setting

通常は使用しません。

■ Agent Information（1_1）

マネジメントブレードで動作する各種エージェントの設定を行います。

```
     +-------------------------------------------+
     |            Agent Information      page_1_1            |
     +-------------------------------------------+
(1)  Set Management Agent IP Address      : 192.168.1.1
(2)  Set Management Agent Network Mask    : 255.255.255.0
(3)  Set Management Agent Gateway         : 0.0.0.0
(4)  Set Management Agent DHCP Configure  : disable
(5)  Set Time Zone : (GMT+9)   Osaka, Sapporo, Tokyo
(6)  Set Management Agent Date Time       : MM/DD/YYYY HH:MM:SS
(7)  Set Management Agent Timeout(Sec)    : 900
(8)  Set Management Agent System Name     :
(9)  Set Management Agent System Location  :
(10) Set Management Agent System Contact  :
(-)  Management Agent Administrative URL  : http://192.168.1.1:80/
(12) Automatically Adjust Clock for Daylight Saving Changes : disable
(13) Agent HTTP
(14) Agent SNMP
(15) Agent Telnet
(16) Agent DNS
(17) Agent SMTP
(18) Agent NTP
(19) Agent NIC Duplex Mode
(20) Change Management Role To Slave
Enter selection or type (0) to quit:
```

● 1. Set Management Agent IP Address

マネジメントブレードの IP アドレスの値を設定します。設定はマネジメントブレードの再起動後に有効になります（設定必須。デフォルト値：192.168.1.1）。

● 2. Set Management Agent Network Mask

マネジメントブレードのサブネットマスクの値を設定します。設定は、マネジメントブレードの再起動後に有効になります（設定必須。デフォルト値：255.255.255.0）。

● 3. Set Management Agent Gateway

マネジメントブレードのゲートウェイの値を設定します。設定は、マネジメントブレードの再起動後に有効になります。

● 4. Set Management Agent DHCP Configure

DHCP サーバを使用するかどうかを設定します。設定は、マネジメントブレードの再起動後に有効になります。

－enable

マネジメントブレードの IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを DHCP サーバから設定します。

－disable

DHCP サーバで設定しません。

● 5. Set Time Zone

マネジメントブレードのタイムゾーンを設定します。タイムゾーンテーブルをサポートします。

● 6. Set Management Agent Date Time

マネジメントブレードの時刻を設定します。< 月 / 日 / 西暦 時 : 分 : 秒 > の形式で入力します。時刻は 24 時間形式で入力します。

● 7. Set Management Agent Timeout（Sec）

コンソールログオンのタイムアウト値を設定します。操作が設定された秒数の間に行われなかった場合に、自動的にログオン画面に戻ります。値は 30 ～ 65535 秒の間で設定できます。0 に設定すると、この自動切断機能は無効になります。また、設定した値は Web UI 上の Telnet の［DropTime］と共通になります。

● 8. Set Management Agent System Name

SNMP で装置を識別するために、マネジメントブレードのシステム名を設定します。ServerView を使用する場合は設定してください（推奨）。

● 9. Set Management Agent System Location

SNMP での装置の管理作業のためにマネジメントブレードのロケーション（設置場所）を設定します。

● 10. Set Management Agent System Contact

SNMP での装置の管理作業のため連絡先（コンタクト）を設定します。

● Management Agent Administrative URL

Web UI にアクセスする URL を表示します。

● 12. Automatically Adjust Clock for Daylight Saving Changes

サポートしていません。設定を行わないでください。

● 13. Agent HTTP（1_1_13）

マネジメントブレード上の HTTP エージェントの設定を行います。

```
+-------------------------------------------+
|              Agent HTTP      page_1_1_13  |
+-------------------------------------------+

 (1) Set HTTP Enable     : enable
 (2) Set HTTP Port       : 80
 (3) Set HTTP SSL Enable : disable
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. Set HTTP Enable**

  HTTP サービスの有効／無効を設定します。設定は、マネジメントブレードの再起動後に有効になります。HTTP サービスを無効にした場合は Web UI は使用できません。

  －enable

  HTTP サービスを有効にします。

  －disable

  HTTP サービスを無効にします。

- **2. Set HTTP Port**

  HTTP のポート番号を設定します。設定は、10 秒後に有効になります（デフォルト値：80）。

- **3.Set HTTP SSL Enable**

  HTTP SSL を使用するかどうかを設定します。

  － enable：HTTP SSL を使用します。

  － disable：HTTP SSL を使用しません。

重 要

▶ SSL を使用するためには、Web ブラウザで SSL バージョン 3 のみを有効にする必要があります。また、Web ブラウザで SSL バージョン 2 が有効になっている場合は無効に変更してください。

● 14. Agent SNMP（1_1_14）

マネジメントブレード上の SNMP エージェントの設定を行います。

```
+-------------------------------------------+
|              Agent SNMP      page_1_1_14  |
+-------------------------------------------+

 (1) Set Agent SNMP Enable : enable
 (2) Set Agent SNMP Security Enable : disable
 (3) Agent SNMP Trap Table
 (4) Agent SNMP Community String Table
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. Set Agent SNMP Enable**

  SNMP サービスの有効／ 無効を設定します。ServerView などの SNMP で通信するアプリケーションを使用する場合は、有効に設定してください。

  －enable

  SNMP エージェントを有効にします。

  －disable

  SNMP エージェントを無効にします。

- **2. Set Agent SNMP Security Enable**

  SNMP Security は、ServerView で［システム識別灯表示］ボタンを使用した場合にユーザ名とパスワードの入力を求めるかどうかを設定します。

  －enable

  SNMP Security を有効にします。

  －disable

  SNMP Security を無効にします。

- **3. Agent SNMP Trap Table（1_1_14_3）**
  SNMP トラップの送信先のテーブルの設定／表示を行います。
  数字を選択すると、SNMP トラップの送信先の IP アドレスを設定できます。

```
+-------------------------------------------+
|          Agent SNMP Trap Table      page_1_1_14_3        |
+-------------------------------------------+

 (1) Agent SNMP Trap 1 : 0.0.0.0
 (2) Agent SNMP Trap 2 : 0.0.0.0
 (3) Agent SNMP Trap 3 : 0.0.0.0
 (4) Agent SNMP Trap 4 : 0.0.0.0
 (5) Agent SNMP Trap 5 : 0.0.0.0
 Enter selection or type (0) to quit:
```

  また、各 IP アドレスに対して「SNMP Trap Community String」を設定することができます。

- **4. Agent SNMP Community String Table（1_1_14_4）**
  SNMP コミュニティ名の設定／表示を行います。

```
+-------------------------------------------+
|       Agent SNMP Community String      page_1_1_14_4      |
+-------------------------------------------+

 (1) SNMP Community String 1 :
 (2) SNMP Community String 2 :
 (3) SNMP Community String 3 :
 (4) SNMP Community String 4 :
 (5) SNMP Community String 5 :
 Enter selection or type (0) to quit:
```

POINT

- ServerView や SystemcastWizard などの SNMP で通信を行うアプリケーションを使用する場合には、コミュニティ名の設定が必要です。通信可能なコミュニティ名を設定してください。

● 15. Agent Telnet（1_1_15）

マネジメントブレード上の Telnet エージェントの設定を行います。

```
+-------------------------------------------+
|              Agent TELNET      page_1_1_15 |
+-------------------------------------------+

 (1) Set Telnet Enable     : enable
 (2) Set Telnet Port       : 3172
 (3) Telnet IP Filter Table
 (4) Telnet Disconnection
 (5) Set telnet SSL Enable : disable
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. Set Telnet Enable**

  Telnet サービスの有効／無効を設定します。設定は、マネジメントブレードの再起動後に有効になります。

  －enable

  Telnet サービスを有効にします。

  －disable

  Telnet サービスを無効にします。

- **2. Set Telnet Port**

  Telnet のポート番号を設定します（デフォルト値：3172）。
  設定は、マネジメントブレードの再起動後に有効になります。

- **3. Telnet IP Filter Table（1_1_15_3）**

  Telnet サービスを許可する IP の設定を行います。
  Telnet を許可する IP は、最大 10 個まで登録できます。
  ご購入時に登録されている 255.255.255.255 は IP のフィルタリングを行いません。IP フィルタリングを行う場合は削除してください。

```
+-------------------------------------------+
|          Telnet IP Filter Table      page_1_1_15_3        |
+-------------------------------------------+

 (1) Telnet IP Filter 1 : 255.255.255.255
 (2) Telnet IP Filter 2 : 0.0.0.0
 (3) Telnet IP Filter 3 : 0.0.0.0
 (4) Telnet IP Filter 4 : 0.0.0.0
 (5) Telnet IP Filter 5 : 0.0.0.0
 (6) Telnet IP Filter 6 : 0.0.0.0
 (7) Telnet IP Filter 7 : 0.0.0.0
 (8) Telnet IP Filter 8 : 0.0.0.0
 (9) Telnet IP Filter 9 : 0.0.0.0
 (10)Telnet IP Filter 10: 0.0.0.0
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **4. Telnet Disconnection**

  Telnet 接続しているコネションを強制的に切ります。操作は画面の指示に従って行ってください。

- **5. Set telnet SSL Enable**

  Telnet SSL を使用するかどうかを設定します。
  － enable：Telnet SSL を使用します。
  － disable：Telnet SSL を使用しません。

重 要

- SSL を使用するためには、Telnet のクライアントソフトで SSL バージョン 3 のみを有効にする必要があります。

● 16. Agent DNS（1_1_16）

マネジメントブレードの DNS の設定を行います。

```
+-------------------------------------------+
|            Agent Network DNS      page_1_1_16          |
+-------------------------------------------+

(1) Set DNS IP Address_1 : 0.0.0.0
(2) Set DNS IP Address_2 : 0.0.0.0
Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. Set DNS IP Address_1**

  DNS サーバ 1 の IP アドレスを入力します。
- **2. Set DNS IP Address_2**

  DNS サーバ 2 の IP アドレスを入力します。

● 17. Agent SMTP（1_1_17）

マネジメントブレードの SMTP 機能（アラームハンドラ）の設定を行います。

```
+-------------------------------------------+
|                Agent SMTP      page_1_1_17              |
+-------------------------------------------+

(1) Set Agent SMTP ENABLE                   : enable
(2) Set Agent SMTP Relay Server Domain Name :
(3) Set Agent SMTP Sender E-mail Address    :
(4) Agent SMTP User Table
Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. Set Agent SMTP ENABLE**

  SMTP を使用してイベントを電子メールで送付するかどうか設定します。設定は、再起動後に有効になります。

  －enable

  SMTP を使用します。

  －disable

  SMTP を使用しません。

- **2. Set Agent SMTP Relay Server Domain Name**

  SMTP サーバの IP アドレスを入力します。

- **3. Set Agent SMTP Sender E-mail Address**

  送信側の電子メールアドレスを入力します。

- **4. Agent SMTP User Table（1_1_17_4）**

  イベントを受信するユーザの電子メールアドレスを入力します。

```
+-------------------------------------------+
|          Agent SMTP User Table      page_1_1_17_4        |
+-------------------------------------------+

 (1) Agent SMTP User 1 :
 (2) Agent SMTP User 2 :
 (3) Agent SMTP User 3 :
 (4) Agent SMTP User 4 :
 (5) Agent SMTP User 5 :
 Enter selection or type (0) to quit:
```

● 18. Agent NTP（1_1_18）

マネジメントブレードの NTP（Network Time Protocol）の設定を行います。

```
+-------------------------------------------+
|          Agent NTP      page_1_1_18       |
+-------------------------------------------+

 (1) Set NTP ENABLE             : disable
 (2) NTP Server IP
 (-) The Lastest Sync Date/Time : Not Ready
 (4) Sync Mode                  : Sync Afterward
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. Set NTP ENABLE**

  NTP の有効／無効を設定します。NTP を有効にすると、マネジメントブレードの時刻を定期的に NTP サーバと同期させます。同期する方式は (4)Sync Mode で指定します。

  － enable

  NTP を有効にします。

  － disable

  NTP を無効にします。

- **2. NTP Server IP（1_1_18_2）**

  NTP サーバの IP アドレスを入力します。

```
+-------------------------------------------+
|          NTP Server IP      page_1_1_18_2 |
+-------------------------------------------+

 (1) NTP Server IP 1 : 0.0.0.0
 (2) NTP Server IP 2 : 0.0.0.0
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1 .NTP Server IP 1**
  プライマリ NTP サーバの IP アドレスを入力します。
- **2. NTP Server IP 2**
  セカンダリ NTP サーバの IP アドレスを入力します。

重 要

▶ 間違った IP アドレスを入力すると時刻合わせが行われませんので、ご注意ください。

- **The Lastest Sync Date/Time**
  マネジメントブレードと NTP サーバが時刻同期を行った最新の時刻を表示します。

重 要

▶ NTP を有効に設定した場合は、この表示で時刻の同期が行われているかどうか必ず確認してください。設定直後は、表示に時間がかかる場合があるので、ページの再表示を数回行って確認してください。

- **4. Sync Mode**
  時刻の同期モードを指定します。
  －Sync Afterward
  NTP サーバの時刻が進んでいるときだけ、マネジメントブレードの時刻を合わせます。データベースなど時間関係に注意が必要な用途で使用している場合には、このモードを選択してください。
  －Sync Always
  マネジメントブレードの時刻を 15 分毎に、NTP サーバと同期します。

● 19. Agent NIC Duplex Mode

使用しません。設定を変更しないでください。

● 20. Change Management Role To Slave

マネジメントブレードが冗長構成の時に、動作モードを強制的にスレーブモードに変更します。通常は使用しないでください。

■ Management Blade（1_2）

搭載されているマネジメントブレードとその動作モードが表示されます。
マネジメントブレードを選択すると、各種情報を表示します。

```
+-------------------------------------------+
|              Management Blade      page_1_2            |
+-------------------------------------------+

 (1) Management Blade_1 : master
 (2) Management Blade_2 : slave
 Enter selection or type (0) to quit:
```

● Management Blade_1, 2（1_2_1）

マネジメントブレードの各種情報を表示します。

```
+-------------------------------------------+
|             Management Blade      page_1_2_1            |
+-------------------------------------------+

 (-) Management Blade Run Mode          : master
 (-) Management Blade Status            : xx
 (-) Management Blade Manufacture       : xx
 (-) Management Blade Manufacture Date  : MM/DD/YYYY HH:MM:SS
 (-) Management Blade Serial Number     : xx
 (-) Management Blade Product Name      : xx
 (-) Management Blade Model Name        : xx
 (-) Management Blade Hardware Version  : xx
 (-) Management Blade Firmware Version  : xx
 (-) Management MAC Address             : xx:xx:xx:xx:xx:xx
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **Management Blade Run Mode**

  マネジメントブレードの動作モードを表示します。

  －master

  マネジメントブレードがマスタとして動作して、シャーシの管理を行っています。

  －slave

  マネジメントブレードがスレーブとして動作しています。マスタに異常が起こった場合のための待機モードです。

- **Management Blade Status**
  マネジメントブレードのステータスを表示します。
- **Management Blade Manufacture**
  製造元を表示します。
- **Management Blade Manufacture Date**
  製造年月日を表示します。
- **Management Blade Serial Number**
  シリアル番号を表示します。
- **Management Blade Product Name**
  製品名を表示します。
- **Management Blade Model Name**
  モデル名を表示します。
- **Management Blade Hardware Version**
  ハードウェア版数を表示します。
- **Management Blade Firmware Version**
  ファームウェアの版数を表示します。
- **Management MAC Address**
  LAN インタフェースに使用している MAC アドレスを表示します。

■ System Information（1_3）

電源ユニットやシステムファンユニット、温度などのブレードサーバシステムのステータスと構成情報を確認／設定します。

```
+-------------------------------------------+
|            System Information      page_1_3            |
+-------------------------------------------+

 (1) System Control Information
 (2) System Power Supply
 (3) System Fan
 (4) System Temperature
 (5) System Chassis Table
 (6) System UPS
 (7) System KVM
 (8) System LED Control : off
 (9) NIC Status Detection
 (10) Turn on/off all server blades
 Enter selection or type (0) to quit:
```

● 1. System Control Information（1_3_1）

システムの情報を表示します。

```
+-------------------------------------------+
|        System Control Information      page_1_3_1       |
+-------------------------------------------+

 (-) System Name                   : BX300
 (-) Number of Fans                : xx
 (-) Number of Temperature Sensors : xx
 (-) Number of Power Supply Unit   : xx
 (-) System Housing Type           : BX300
 (-) System Overall Status         : xx
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **System Name**
  システムの名前を表示します。
- **Number of Fans**
  シャーシに搭載されているファンの数を表示します。
- **Number of Temperature Sensors**
  シャーシに搭載されている温度センサの数を表示します。
- **Number of Power Supply Unit**
  シャーシに搭載されている電源ユニットの数を表示します。
- **System Housing Type**
  シャーシのタイプを表示します。

- **System Overall Status**
  システム全体のステータスを表示します。

● 2. System Power Supply（1_3_2）

```
+-------------------------------------------+
|            System Power Supply      page_1_3_2          |
+-------------------------------------------+

 (1) System Power Supply Control    : off
 (-) System Power Supply Status     : not-ready
 (-) System Power Supply Redundancy : 1
 (4) System Power Supply Unit Table
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. System Power Supply Control**
  シャーシのメイン電源の電源状態を制御します。使用する場合は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」（→ P.119）を参照してください。
  －on
  シャーシのメイン電源を入れます。
  －off
  シャーシのメイン電源を切ります。
  － graceful shutdown
  搭載されている各サーバブレードに対して、「－ off」（→ P.89）を指示してからメイン電源を切ります。

重 要

▶ この機能を使用する場合は、搭載されるサーバブレードに対して各種の対応が必要です。詳細は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」（→ P.119）を参照してください。対応していないサーバブレードに対してこの操作を行った場合には、ACPI シャットダウンや電源切断など予期しない動作をするおそれがありますので、選択しないでください。

- **System Power Supply Status**
  電源全体のステータスを表示します。
- **System Power Supply Redundancy**
  冗長電源ユニットの数を表示します。

- **4. System Power Supply Unit Table（1_3_2_4）**
  選択すると、搭載されている電源ユニットの一覧を表示します。番号を選択すると、さらに詳しい情報が表示されます。

```
+-------------------------------------------+
|      System Power Unit Status Table      page_1_3_2_4    |
+-------------------------------------------+

 (1) Power Supply Unit 1 : xx
 (2) Power Supply Unit 2 : xx
 Enter selection or type (0) to quit:
```

```
+-------------------------------------------+
|     System Power Supply Unit Table      page_1_3_2_4_1   |
+-------------------------------------------+

(-) System Power Supply Unit Status             : xx
(-) System Power Supply Unit Manufacture        : xx
(-) System Power Supply Unit Product Name       : xx
(-) System Power Supply Model Name              : xx
(-) System Power Supply Product Version         : xx
(-) System Power Supply Serial Number           : xx
(-) System Power Supply Live Time               : xx
(8) System Power Supply Live Time Reset         : reset
(9) Power Supply Live Time Limited Count        : 26000
Enter selection or type (0) to quit:
```

- **System Power Supply Unit Status**
  電源ユニットのステータスを表示します。
- **System Power Supply Unit Manufacture**
  電源ユニットの製造元を表示します。
- **System Power Supply Unit Product Name**
  電源ユニットの製品名を表示します。
- **System Power Supply Model Name**
  電源ユニットのモデル名を表示します。
- **System Power Supply Product Version**
  電源ユニットのプロダクトバージョンを表示します。
- **System Power Supply Serial Number**
  電源ユニットのシリアル番号を表示します。

- **System Power Supply Live Time**
  電源ユニットの稼働時間を表示します。
- **8. System Power Supply Live Time Reset**
  電源ユニットの稼働時間を 0 にします。電源ユニットを交換した場合は、選択して稼動時間を 0 に設定してください。
- **9. Power Supply Live Time Limited Count**
  電源ユニットの寿命時間を表示／設定します。通常は設定の変更は行わないでください。

重 要

- 電源ユニットの定期交換について
  電源／ダミー電源ユニットは定期交換部品です（→『ハードウェアガイド シャーシ編』）。定期交換後は設定の変更を行ってください。

● 3. System Fan（1_3_3）

```
+-------------------------------------------+
|              System Fan       page_1_3_3  |
+-------------------------------------------+

 (1) System Fans Table
 (2) System Fans Live Time Table
 (3) Set System Fans Daily Test Time  : disabled
 (4) Fan Test At Every Start-up       : disable
 (-) System Fans Overall Status       : ok
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. System Fans Table（1_3_3_1）**

  シャーシと電源ユニットに搭載されているファンのテーブルが表示されます。
  ファンの番号を選択すると、そのファンの設定と情報の表示を行うことができます。

```
+-------------------------------------------+
|              System Fan      page_1_3_3_1            |
+-------------------------------------------+

(1) Front-Fan-1      : XX
(2) Front-Fan-2      : XX
(3) Front-Fan-3      : XX
(4) Front-Fan-4      : XX
(5) Front-Fan-5      : XX
(6) Rear-Fan-1       : XX
(7) Rear-Fan-2       : XX
(8) PowerUnit1-Fan-1 : XX
(9) PowerUnit1-Fan-2 : XX
(10)PowerUnit1-Fan-3 : XX
(11)PowerUnit2-Fan-1 : XX
(12)PowerUnit2-Fan-2 : XX
(13)PowerUnit2-Fan-3 : XX
Enter selection or type (0) to quit:
```

```
+-------------------------------------------+
|              System Fan       page_1_3_3_1_1            |
+-------------------------------------------+

(1) System Fan Fail Reaction        : continue
(-) System Fan Designation          : Front-Fan-1
(-) System Fan Status               : xx
(-) System Fan Current Speed        : xx
(-) System Nominal Maximum Speed    : xx
(-) System Current Maximum Speed    : xx
Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. System Fan Fail Reaction**

  各ファンに対して以下のアクションを設定します。

  －continue

  ファン故障時にもサーバを継続稼動させます。

  －shutdown-and-poweroff

  ファン故障発生時にシャーシのメイン電源の graceful シャットダウンを行います。
  使用する場合は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」（→ P.119）を参照してください。

- **System Fan Designation**
  各ファンの場所を表示します。
  －Front-Fan-1 ～ 5：フロントファンユニット内蔵ファン
  －Rear-Fan-1 ～ 2：リアファンユニット内蔵ファン
  －PowerUnit1, 2-Fan-1 ～ 3：電源ユニット内蔵ファン
  （1：電源冷却用ファン、2 と 3：リア部システムファンユニット）
- **System Fan Status**
  各ファンのステータスを表示します。
- **System Fan Current Speed**
  各ファンの現在の回転数を表示します。
- **System Nominal Maximum Speed**
  各ファンの公称最大回転数を表示します。
- **System Current Maximum Speed**
  各ファンの最大回転数を表示します。

- **2. System Fans Live Time Table（1_3_3_2_1）**
  システムファンユニットの稼働時間の一覧です。システムファンユニットを選択すると、そのシステムファンユニットの稼働時間に関する設定と情報の表示を行うことができます。

```
+-------------------------------------------+
|              System Fan       page_1_3_3_2_1            |
+-------------------------------------------+

(-) Fan Live Time                  : 0
(2) Fan Live Time Reset            : reset
(3) Fan Live Time Limited Count    : 26000
Enter selection or type (0) to quit:
```

- **Fan Live Time**
  システムファンユニットの稼働時間を表示します。
- **2. Fan Live Time Reset**
  システムファンユニットの稼働時間を 0 にします。システムファンユニットを交換した場合は、選択して稼働時間を 0 に設定してください。
- **3. Fan Live Time Limited Count**
  システムファンユニットの寿命時間を表示／設定します。通常は設定の変更は行わないでください。

- **3. Set System Fans Daily Test Time**

  システムファンの動作テストを毎日行う場合の時刻を設定します。

  －<hh:mm>

  時刻を「時：分」で設定します。時間は 24 時間形式で入力します。

  －disable

  動作テストを行いません。

- **4. Fan Test At Every Start-up**

  システムファンの動作テストを、ファンの動作開始時に毎回行うかどうか設定します。

  －enable

  動作テストを行います。

  －disable

  動作テストを行いません。

- **System Fans Overall Status**

  システムファン全体のステータスが表示されます。

重 要

- システムファンユニットの定期交換について
  システムファンユニットは定期交換部品です（→『ハードウェアガイド シャーシ編』）。定期交換後は設定の変更を行ってください。

● 4. System Temperature（1_3_4）

```
+-------------------------------------------+
|          System Temperature      page_1_3_4          |
+-------------------------------------------+

 (1) System Temperature Sensor Table
 (-) System Temperature Overall Status : ok
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. System Temperature Sensor Table（1_3_4_1）**

  温度センサの番号を選択すると、その温度センサの設定と情報の表示を行うことができます。

```
+-------------------------------------------+
|          System Temperature      page_1_3_4_1          |
+-------------------------------------------+

(1)  Housing-Left   : ok
(2)  Housing-Center : ok
(3)  Housing-Right  : ok
(4)  Ambient        : ok
(5)  Switch-1       : ok
(6)  Switch-2       : not-available
(7)  Switch-3       : not-available
(8)  Switch-4       : not-available
(9)  PSU-1          : ok
(10) PSU-2          : ok
Enter selection or type (0) to quit:
```

```
+-------------------------------------------+
|          System Temperature       page_1_3_4_1_1         |
+-------------------------------------------+

(1) System Temperature Critical Reaction        : continue
(-) System Temperature Sensor Designation       : Housing-Left
(-) System Temperature Sensor Status            : xx
(-) System Temperature Upper Warning Level      : xx
(-) System Temperature Upper Critical Level     : xx
(-) System Temperature Current Value            : xx
Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. System Temperature Critical Reaction**

  各温度センサに対して、以下のアクションを設定します。

  －continue

  温度異常時にもサーバを継続稼動させます。

  －shutdown-and-poweroff

  温度異常の発生時にシャーシのメイン電源の graceful シャットダウンを行います。

  使用する場合は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」（→P.119）を参照してください。

- **System Temperature Sensor Designation**

  各温度センサの場所を表示します。

  －Housing-Left, Center, Right：シャーシを前から見たときの左側、中央、右側

  －Ambient：フロントファンユニット内部

  －Switch-1 ～ 4：スイッチブレード内部

・**System Temperature Sensor Status**
各温度センサのステータスを表示します。
・**System Temperature Upper Warning Level**
温度の警告しきい値を表示します。
・**System Temperature Upper Critical Level**
温度の危険しきい値を表示します。
・**System Temperature Current Value**
各温度センサの現在の測定値を表示します。

- **System Temperature Overall Status**
システム全体の温度センサのステータスを表示します。

● 5. System Chassis Table（1_3_5）

シャーシのシステムファンのステータスとシリアル番号を表示します。

- **System Chassis Intrusion Table**

```
+-------------------------------------------+
|              System Chassis       page_1_3_5            |
+-------------------------------------------+

 (1) System Chassis Intrusion Table
 (-) System Chassis Serial Number   : xx
 (-) System Chassis Product Version : xx
 Enter selection or type (0) to quit:
```

（1）を選択すると、フロント／リアファンユニットの取り付け状態が表示されます。

```
+-----------------------------------------------+
| Chassis Intrusion (Sensor_1:Front, Sensor_2:Rear) page_1_3_5_1 |
+-----------------------------------------------+

   (-) System Chassis Intrusion Sensor_1 : xx
   (-) System Chassis Intrusion Sensor_2 : xx
   Enter selection or type (0) to quit:
```

Sensor_1: フロントファンユニット、Sensor_2: リアファンユニットのドアステータスが表示されます。

－close

ファンユニットが取り付けられています。

－open

ファンユニットが取り外されています。

- **System Chassis Serial Number**

  シャーシのシリアル番号を表示します。

- **System Chassis Product Version**

  シャーシのプロダクト版数を表示します。

● 6. System UPS

使用しません。

● 7. System KVM

シャーシに接続されるキーボード／ディスプレイ／マウスを、どのスロットのサーバブレードが使用するかを切り替えます。

● 8. System LED Control

システム識別灯表示機能として、シャーシの保守ランプの状態を制御します。

－on

シャーシ前面と背面の保守ランプを点灯させます。

－off

シャーシ前面と背面の保守ランプを点灯させません。

－blinking

シャーシ前面と背面の保守ランプを点滅させます。

POINT

- 「System Overall Status」が「error」または「critical」状態の時は、「on」に設定しても点滅します。

● 9. NIC Status Detection（1_3_9）

```
+-----------------------------------------------+
|              NIC Status Detection         page_1_3_9          |
+-----------------------------------------------+

   (1) NIC Status Detection  : disable
   (2) NIC Detection Timeout : 120
   Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1.NIC Status Detection**

  マネジメントブレードが冗長構成の場合に、NIC ステータスを検出するかどうかを設定します。この設定が有効の場合は、LAN インタフェース経由での通信を常時監視します。一定時間の間に LAN インタフェース経由での通信が行われなかった場合は（2.NIC Detection Timeout）、NIC ステータスの自己診断テストを行います。ここで異常を検出した場合は、強制的にマスタの切り替えを実行し、通信経路を変更します。これにより、NIC 異常や LAN ケーブルの切断などによる通信障害においても、LAN インタフェース経由の管理／運用の続行が可能になります。

  － enable：NIC ステータスを検出します。

  － disable：NIC ステータスを検出しません。

- **2.NIC Detection Timeout**

  NIC ステータスを検出する時間を設定します。ここで設定した時間の間に LAN インタフェース経由での通信が行われなかった場合に、NIC ステータスの自己診断テストが行われます。0 ～ 300 秒の間で設定できます。

POINT

- マネジメントブレードが非冗長構成のときには、「NIC Status Detection」は必ず「disable」に設定してください。
- マネジメントブレードが冗長構成のときに「NIC Status Detection」を「enable」に設定する場合は、必ず事前に以下のことを確認してください。
  - ・マスタとスレーブのマネジメントブレードに、LAN ケーブルを接続してください。このとき、接続先のネットワーク機器とのリンクが確立していることを必ず確認してください。
  - ・監視端末がマスタとスレーブのマネジメントブレードの両方に、LAN インタフェースにより通信できるネットワーク構成であることを確認してください。
- ServerView 等のサーバ監視ソフトウェアのタイムアウト値は「NIC Detection Timeout」の設定値よりも長く設定してください（タイムアウト値の設定に関しては、各種サーバ監視ソフトウェアのマニュアルを参照してください）。

重 要

- 「NIC Status Detection」で異常が検出された場合、マネジメントブレードのステータスは「critical」になりますが、マネジメントブレード異常ランプは点滅／点灯しません。

● 10.Turn on/off all server blades（1_3_10）

搭載されているすべてのサーバブレードの電源を制御します。

```
+-----------------------------------------------+
|          Turn on/off all server blades        page_1_3_10   |
+-----------------------------------------------+

   (1) Turn on all server blades
   (2) Turn off all server blades
   Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. Turn on all server blades**
  搭載されているすべてのサーバブレードの電源が、順次入るようにします。
- **2. Turn off all server blades**
  選択すると、確認画面が表示されます。確認画面で「Yes, turn off all server blades」を選択すると、搭載されているすべてのサーバブレードの「Server power」に対して、順次「off」が指示されます（サーバブレードの「Server power」に関しては「• 1. Server power」（→P.89）を参照してください）。

重 要

- この項目でサーバブレードの電源制御を行う場合は、指示を行ったあとに、電源の ON/OFF がすべて完了したことを CLI の表示などで確認してから次の操作に進んでください。

■ Server Blade（1_4）

サーバブレードに関する各種設定や情報の表示を行います。

```
+-------------------------------------------+
|     Server Control Information Table      page_1_4     |
+-------------------------------------------+

 (1) Server Blade_1: ok
 Enter selection or type (0) to quit:
```

搭載されている各サーバブレードがすべて表示されます。設定や情報表示したいサーバブレードの番号を選択すると、以下の画面が表示されます。

```
+-------------------------------------------+
|              Server Blade       page_1_4_1              |
+-------------------------------------------+

 (1) Server Blade Control Information
 (2) Server Blade Information
 (3) Server Blade CPU
 (4) Server Blade Memory
 (5) Server Blade Voltage Table
 (6) Server Blade Temperature
 (7) Server Blade NIC Information
 (8) Server Blade Watch Dog
 Enter selection or type (0) to quit:
```

● 1. Server Blade Control Information（1_4_1_1）

```
+-------------------------------------------+
|          Server Blade Control      page_1_4_1_1          |
+-------------------------------------------+

(1) Server power                        : on
(2) Set Server Maximum Restart Retries : 3
(3) Set Server Boot Mode                : normal
(4) Server LED Control                  : off
(-) Server CPU Mode                     : performance
(-) Server Administrative URL           :
Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. Server power**

  サーバブレードの電源の設定を行います。使用する場合は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」（→ P.119）を参照してください。

  －on

  サーバブレードの電源を入れます。

  －off

  サーバブレード上で動作する SeverView エージェントに OS のシャットダウン指示を送り、電源を切ります。

重 要

▶ この機能を使用する場合は、サーバブレードに対して各種の対応が必要になります。詳細は、「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」（→ P.119）を参照してください。対応していないサーバブレードに対してこの操作を行った場合には、ACPI シャットダウンや電源切断など予期しない動作をするおそれがありますので選択しないでください。

  －power-cycle

  サーバブレードの電源を切ったあと、再度電源を入れます。

  －reset

  サーバブレードを再起動します。

  －NMI

  通常は選択しないでください。

  －force-off

  サーバブレードの電源を強制的に切ります。

⚠ 注意

● サーバブレードの電源切断を指示したあと電源 ON を指示する場合は、サーバブレードの電源が確実に切れたことを確認してから行ってください。

- **2. Set Server Maximum Restart Retries**

  OS の起動に失敗した場合に、何回リトライするかを設定します。

  －0

  リトライを行いません。

  －1 ～ 7 回

  設定した回数リトライします。

- **3. Set Server Boot Mode**

  サーバブレードの OS ブート時のブート方法を設定します。

  －normal

  サーバブレードのブートオーダを、BIOS に設定されているデフォルトの設定にします。

  －pxe-lan-1

  サーバブレードのブートオーダの先頭を、LAN ポート 1 を使用して PXE（Preboot eXecution Environment）でブートするように変更します。

  －pxe-lan-2

  サーバブレードのブートオーダの先頭を、LAN ポート 2 を使用して PXE（Preboot eXecution Environment）でブートするように変更します。

- **4. Server LED Control**

  サーバブレード判別機能として、電源ランプの表示を制御します。シャーシに搭載される複数のサーバブレードの判別に使用します。

  －blinking

  サーバブレードの電源ランプを点滅させます。

  －off

  サーバブレード電源ランプの制御を行いません。

- **Server CPU Mode**

  サーバブレードに搭載されている CPU の動作モードを表示します。

  －Performance

  CPU は Performance モードで動作しています。

  －not-ready

  CPU は動作していません。

- **Server Administrative URL**

  使用しません。

● 2. Server Blade Information（1_4_1_2）

サーバブレードの情報を表示します。

```
+-------------------------------------------+
|        Server Blade Information      page_1_4_1_2        |
+-------------------------------------------+

 (-) Server Blade Status           : xx
 (-) Server Blade Manufacture      : xx
 (-) Server Blade Manufacture Date : MM/DD/YYYY HH:MM:SS
 (-) Server Blade Serial Number    : XX
 (-) Server Blade Product Name     : XX
 (-) Server Blade Product Version  : XX
 (-) Server Blade Model Name       : XX
 (-) Server Blade Hardware Version : XX
 (-) Server Blade BIOS Version     : XX
 (-) Number Of CPU Socket          : XX
 (-) Number Of Memory Socket       : XX
 (-) Server Blade OS Type          : XX
 (-) Server Blade OS Version       : XX
 (-) Server Blade BMC Firmware Version : XX
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **Server Blade Status**
  サーバブレードのステータスを表示します。
- **Server Blade Manufacture**
  製造元を表示します。
- **Server Blade Manufacture Date**
  製造年月日を表示します。
- **Server Blade Serial Number**
  シリアルナンバーを表示します。
- **Server Blade Product Name**
  製品名を表示します。
- **Server Blade Product Version**
  プロダクト版数を表示します。
- **Server Blade Model Name**
  モデル名を表示します。
- **Server Blade Hardware Version**
  ハードウェアの版数を表示します。
- **Server Blade BIOS Version**
  BIOS の版数を表示します。
- **Number Of CPU Socket**
  CPU ソケットの数を表示します。
- **Number Of Memory Socket**
  搭載されているメモリスロットの数を表示します。
- **Server Blade OS Type**
  ServerView エージェントが OS にインストールされている場合、OS のタイプを表示します。
- **Server Blade OS Version**
  ServerView エージェントが OS にインストールされている場合、OS のバージョンを表示します。

- **Server Blade BMC Firmware Version**

  BMC（Baseboard Management Controller ：ベースボード上で温度や電圧などのセンサ等を管理しているマイクロコントローラ）のファームウェア版数を表示します。

● 3. Server Blade CPU（1_4_1_3）

サーバブレードに搭載されている CPU に関する情報を表示します。

```
+-------------------------------------------+
|       Server Blade CPU Table       page_1_4_1_3          |
+-------------------------------------------+

(1) CPU 1 : ok
Enter selection or type (0) to quit:
```

搭載している CPU のステータスを表示します。番号を選択すると、CPU の詳しい情報が表示されます。

```
+-------------------------------------------+
|     Server Blade CPU Information       page_1_4_1_3_1     |
+-------------------------------------------+

(-) CPU Type                : xx
(-) CPU Frequency           : xx
(-) CPU Step                : xx
(-) CPU Status              : xx
(-) CPU Name                : xx
(-) CPU Socket Designation  : xx
(-) CPU Manufacturer        : xx
(-) CPU CLock               : xx
Enter selection or type (0) to quit:
```

- **CPU Type**

  CPU のタイプを表示します。

- **CPU Frequency**

  CPU の周波数を表示します。

- **CPU Step**

  CPU のステッピングを表示します。

- **CPU Status**
  CPU のステータスを表示します。
- **CPU Name**
  CPU の種類を表示します。
- **CPU Socket Designation**
  CPU のソケットの場所を表示します。
- **CPU Manufacturer**
  CPU の製造元を表示します。
- **CPU CLock**
  CPU バスの動作周波数を表示します。

● 4. Server Blade Memory（1_4_1_4）

サーバブレードに搭載されているメモリに関する情報を表示します。

```
+-------------------------------------------+
|          Server Blade Memory       page_1_4_1_4          |
+-------------------------------------------+

 (1) Server Blade Memory Information Table
 (2) Server Blade Memory Modules Table
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. Server Blade Memory Information Table（1_4_1_4_1）**
  メモリの総容量を表示します。

```
+-------------------------------------------+
|       Memory Information Table      page_1_4_1_4_1       |
+-------------------------------------------+

 (-) Physical Memory Size     : xx
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **2. Server Blade Memory Modules Table（1_4_1_4_2）**
  搭載されているメモリモジュールのステータスが表示されます。番号を選択すると、さらに詳しい情報が表示されます。

```
+-------------------------------------------+
|   Server Blade Memory Module Table       page_1_4_1_4_2   |
+-------------------------------------------+

 (1) Memory Module 1 : xx
 Enter selection or type (0) to quit:
```

```
+-------------------------------------------+
|   Memory Module Information Table      page_1_4_1_4_2_1   |
+-------------------------------------------+

 (-) Memory Module Status             : xx
 (-) Memory Module Size               : xx
 (-) Memory Module Type               : xx
 (-) Memory Module Socket Designation : xx
 (-) Memory Module Speed              : xx
 Enter selection or type (0) to quit:
```

・Memory Module Status
メモリモジュールのステータスを表示します。

・Memory Module Size
メモリモジュールの容量を表示します。

・Memory Module Type
メモリモジュールのタイプを表示します。

・Memory Module Socket Designation
メモリモジュールが搭載されている位置を表示します。

・Memory Module Speed
メモリバスの動作周波数を表示します。

● 5. Server Blade Voltage Table（1_4_1_5）

サーバブレードの電圧に関する情報を表示します。

測定している電圧が表示されます。番号を選択すると、さらに詳しい情報が表示されます。

なお、使用している CPU の種類／個数によって表示は異なります。

```
+-------------------------------------------+
|          Server Voltage Table      page_1_4_1_5          |
+-------------------------------------------+

 (1) Voltage ID 1 : CPU VTT
 (2) Voltage ID 2 : CPU2 VID
 (3) Voltage ID 3 : CPU1 VID
 (4) Voltage ID 4 : VCC 3.3V
 (5) Voltage ID 5 : VCC 2.75V
 (6) Voltage ID 6 : VCC 5.0V
 Enter selection or type (0) to quit:
```

```
+-------------------------------------------+
|    Server Voltage Information Table      page_1_4_1_5_1  |
+-------------------------------------------+

 (-) Server Voltage Designation    : CPU VTT
 (-) Server Voltage Status         : xx
 (-) Server Voltage Minimum Value  : xx
 (-) Server Voltage Maximum Value  : xx
 (-) Server Voltage Current Value  : xx
 (-) Server Voltage Nominal Value  : xx
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **Server Voltage Designation**
  電圧センサの場所を表示します。
- **Server Voltage Status**
  電圧センサのステータスを表示します。
- **Server Voltage Minimum Value**
  電圧の危険下限しきい値を表示します。
- **Server Voltage Maximum Value**
  電圧の危険上限しきい値を表示します。
- **Server Voltage Current Value**
  電圧の現在の値を表示します
- **Server Voltage Nominal Value**
  電圧の公称値を表示します。

● 6. Server Blade Temperature（1_4_1_6）

サーバブレード上の温度に関する情報を表示します。
測定している温度が表示されます。数値を選択すると、さらに詳しい情報が表示されます。

```
+-------------------------------------------+
|          Server Temperature      page_1_4_1_6          |
+-------------------------------------------+

 (1) Temperature Sensor ID 1 : SYSTEM TEMP1
 (2) Temperature Sensor ID 2 : SYSTEM TEMP2
 (3) Temperature Sensor ID 3 : CPU1 TEMP
 (4) Temperature Sensor ID 4 : CPU2 TEMP
 Enter selection or type (0) to quit:
```

```
+-----------------------------------------------+
| Server Temperature Sensor Information Table      page_1_4_1_6_1 |
+-----------------------------------------------+

   (-) Server Temperature Sensor Designation   : SYSTEM TEMP1
   (-) Server Temperature Sensor Status        : xx
   (-) Server Temperature Upper Warning Level  : xx
   (-) Server Temperature Upper Critical Level : xx
   (-) Server Temperature Current Value        : xx
   Enter selection or type (0) to quit:
```

- **Server Temperature Sensor Designation**
  温度センサの場所を表示します。
- **Server Temperature Sensor Status**
  温度センサのステータスを表示します。
- **Server Temperature Upper Warning Level**
  温度の警告しきい値を表示します。
- **Server Temperature Upper Critical Level**
  温度の危険しきい値を表示します。
- **Server Temperature Current Value**
  温度センサの現在の値を表示します。

● 7. Server Blade NIC Information（1_4_1_7）

サーバブレードのオンボードの NIC の情報を表示します。

```
+-------------------------------------------+
|        Server NIC Information      page_1_4_1_7        |
+-------------------------------------------+

 (1) Server Blade NIC IP Table
 (2) Server Blade MAC Address Table
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. Server Blade NIC IP Table（1_4_1_7_1）**

  ServerView Agent が OS にインストールされている場合、サーバブレードの IP アドレスを表示します。

```
+-------------------------------------------+
|          Server Blade NIC IP      page_1_4_1_7_1        |
+-------------------------------------------+

 (-) IP1 : X.X.X.X
 (-) IP2 : X.X.X.X
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **2. Server Blade MAC Address Table（1_4_1_7_2）**
  サーバブレードの MAC アドレスを表示します。

```
+-------------------------------------------+
|       Server Blade MAC Address      page_1_4_1_7_2       |
+-------------------------------------------+

 (-) NIC1 : xx:xx:xx:xx:xx:xx
 (-) NIC2 : xx:xx:xx:xx:xx:xx
 Enter selection or type (0) to quit:
```

● 8. Server Blade Watch Dog（1_4_1_8）

サーバブレードのウォッチドッグに関する設定を行います。

```
+-------------------------------------------+
|          Server Blade Watchdog      page_1_4_1_8          |
+-------------------------------------------+

 (1) Server Blade Software Watchdog
 (2) Server Blade Boot Watchdog
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. Server Blade Software Watchdog（1_4_1_8_1）**

  サーバブレードの OS ハング監視機能について表示します。
  設定は ServerView で行います。

```
+-------------------------------------------+
|    Software Watchdog Information       page_1_4_1_8_1    |
+-------------------------------------------+

 (-) Software Watchdog Time    : 0.00
 (-) Software Watchdog Action  : not-ready
 (-) Software Watchdog Status  : disable
 Enter selection or type (0) to quit:
```

  ・**Software Watchdog Time**

  OS ハング時のタイムアウト時間を表示します。

  ・**Software Watchdog Action**

  サーバブレードの OS ハング時のアクションを表示します。

  ・**Software Watchdog Status**

  ソフトウェアウォッチドッグのステータスを表示します。

- **2. Server Blade Boot Watchdog（1_4_1_8_2）**

  サーバブレードの OS 起動監視を行います。サーバブレードの POST が終了してから ServerView エージェントが起動するまでの間隔を監視することにより、サーバブレードの OS 起動を監視します。

```
+-------------------------------------------+
|      Boot Watchdog Information       page_1_4_1_8_2      |
+-------------------------------------------+

 (1) Set Boot Watchdog Time   : 10 minutes
 (2) Set Boot Watchdog Enable : disable
 (3) Set Boot Watchdog Action : reboot
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. Set Boot Watchdog Time**

  設定された時間に従い、OS 起動失敗を監視します。

  －2 minutes / 5 minutes / 10 minutes / 15 minutes / 20 minutes / 30 minutes / 60 minutes / 100 minutes

- **2. Set Boot Watchdog Enable**

  OS 起動の監視について設定します。

  －enable

  OS の起動を監視します。

  －disable

  OS の起動を監視しません。

- **3. Set Boot Watchdog Action**

  OS の起動が失敗したときのアクションを設定します。

  －reboot

  サーバブレードを再起動します。

  －off

  サーバブレードの電源を切ります。

  －power-cycle

  サーバブレードの電源を切ったあと、再度電源を入れます。

POINT

- 「OS ブート監視」機能の有効／無効は、ServerView からも設定できます。

重 要

- サーバブレードに ServerView をインストールしていない場合は、必ず「Disabled」に設定してください。「Enabled」に設定した場合、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
- サーバブレードに ServerView をインストールしている場合にも、ServerStart CD-ROM やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する場合は、必ず「OS ブート監視」機能を無効に設定してください。
  「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、サーバブレードが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。
- 本機能の設定時には『ServerView ユーザーズガイド』をご覧になり、本機能の仕様と運用方法を十分ご理解の上、正しく設定してください。

■ Switch Blade（1_5）

スイッチブレードの各種情報を表示します。

```
+---------------------------------------------+
|          Switch Blade Name Table      page_1_5          |
+---------------------------------------------+

 (1) Switch Blade_1: ok
 Enter selection or type (0) to quit:
```

搭載されている各スイッチブレードが表示されます。情報表示したいスイッチブレードの数値を選択すると、以下の画面が表示されます。

```
+---------------------------------------------+
|         Switch Blade Information       page_1_5_1        |
+---------------------------------------------+

 (-) Administrative URL             : http://x.x.x.x/
 (-) Switch Blade Status            : xx
 (-) Switch Blade Manufacture       : xx
 (-) Switch Blade Manufacture Date  : MM/DD/YYYY HH:DD:SS
 (-) Switch Blade Serial Number     : xx
 (-) Switch Blade Product Name      : xx
 (-) Switch Blade Model Name        : xx
 (-) Switch Blade Hardware Version  : xx
 (-) Switch Blade Firmware Version  : xx
 (-) Switch Blade MAC Address       : xx:xx:xx:xx:xx:xx
 (-) Switch Blade IP Address        : x.x.x.x
 (12) Switch Blade LED Control      : off
 (13) Reboot Switch Blade
 Enter selection or type (0) to quit:
```

● Administrative URL

スイッチブレードの Web インタフェースの URL が表示されます。

● Switch Blade Status

スイッチブレードのステータスを表示します。

● Switch Blade Manufacture

製造元を表示します。

● Switch Blade Manufacture Date

製造年月日を表示します。

● Switch Blade Serial Number
シリアルナンバーを表示します。

● Switch Blade Product Name
製品名を表示します。

● Switch Blade Model Name
モデル名を表示します。

● Switch Blade Hardware Version
ボードの版数を表示します。

● Switch Blade Firmware Version
ファームウェアの版数を表示します。

● Switch Blade MAC Address
スイッチブレードの管理用 LAN インタフェースの MAC アドレスを表示します。

● Switch Blade IP Address
スイッチブレードの管理用 LAN インタフェースの IP アドレスを表示します。

● 12. Switch Blade LED Control
スイッチブレード判別機能として、スイッチブレードの保守ランプの表示を制御することができます。シャーシに搭載される複数のスイッチブレードの判別に使用します。

－blinking

スイッチブレード保守ランプを点滅させます。

－off

スイッチブレード保守ランプを制御しません。

● 13. Reboot Switch Blade（1_5_1_13）
スイッチブレードの再起動を行います。

```
+-------------------------------------------+
|                                  page_1_5_1_13  |
+-------------------------------------------+

 Reboot Switch Blade
 (1) reboot now!
 (0) quit
 Enter selection :
```

- **1. reboot now!**

  選択すると、スイッチブレードが再起動します。

■ Username And Password（1_6）

ユーザの追加やパスワードの設定を行います。

```
+-------------------------------------------+
|                User ID List      page_1_6   |
+-------------------------------------------+

 (1) User_1 : root
 (2) User_2 :
 (3) User_3 :
 (4) User_4 :
 (5) User_5 :
 (6) User_6 :
 (7) User_7 :
 (8) User_8 :
 (9) User_9 :
 (10)User_10:
 Enter selection or type (0) to quit:
```

変更したいユーザを選択すると、以下の画面が表示されます。

```
+-------------------------------------------+
|        Edit Username And Password      page_1_6_1   |
+-------------------------------------------+

 (1) Change Username : root
 (2) Change Password : ****
 (3) User Permission : administrator
 Enter selection or type (0) to quit:
```

● 1. Change Username

新規追加や変更したいユーザ名を入力します。

● 2. Change Password

変更したいパスワードを入力します。

● 3. User Permission

ユーザの権限を設定します。

－read only

設定の読み取り専用です。

－read write

設定の読み書きができます。

－administrator

管理者（Root）の権限を持ちます。

POINT

- パスワードおよびユーザ名は、最大 16 文字まで設定できます。また、大文字と小文字は区別されます。
- デフォルトで管理者権限を持つユーザ名「root 」（パスワード「root 」）が設定されています。
  - ・ユーザ名「root 」のパスワードは初期設定時に必ず変更してください。
  - ・ユーザ名「root 」は変更できません。

■ Blue Screen

通常は使用しません。

■ Event Log（1_8）

サーバブレードとマネジメントブレードのイベントログを確認します。

```
+-------------------------------------------+
|                Event Log      page_1_8    |
+-------------------------------------------+

 (1) Management Blade Event Log
 (2) Server Blade Event Log Table
 (3) Server Blade Power On/Off Event Log Enable : disable
 (4) Management Blade Wrap Around Event Log Enable : enable
 Enter selection or type (0) to quit:
```

● 1. Manage Blade Event Log

マネジメントブレードのログを確認します。

● 2. Server Blade Event Log Table

シャーシに搭載されている個々のサーバブレードのログを確認します。

選択後に、以下の画面でログのフィルタリング操作と削除を行います。

```
+-------------------------------------------+
|       Manage Blade Event Log Level      page_1_8_1       |
+-------------------------------------------+

 (1) All Event
 (2) Informational Event
 (3) Minor Event
 (4) Major Event
 (5) Critical Event
 (6) Clear All Entries
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. All Event**
  すべてのログを表示させます。
- **2. Information Event**
  インフォメーションのみを表示させます。
- **3. Minor Event**
  マイナーイベントのみを表示させます。
- **4. Major Event**
  メジャーイベントのみを表示させます。
- **5. Critical Event**
  クリティカルイベントのみを表示させます。
- **6. Clear All Entries**
  すべてのログを消去します。

以下のようなフォーマットでログが表示されます。【Enter】キーを押すと、すべてのログを確認することができます。イベントログのエントリは、マネジメントブレードでは最大 510 件、サーバブレードでは最大 488 件まで保存できます。

- 画面上部にログの件数に関する情報が表示されます。

```
SEL entry number:XXX
```

- システムイベントログ（SEL）に入っているログの数を表示します。

```
Free space of SEL entry:XXX
```

- システムイベントログに入る残りのログ件数を表示します。

```
SEL entry number:XXX, Free space of SEL entry:XXX
XX/XX/XXXX HH:MM:SS Info     00062 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.
XX/XX/XXXX HH:MM:SS Info     00062 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.
XX/XX/XXXX HH:MM:SS Info     00062 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.
XX/XX/XXXX HH:MM:SS Info     00062 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.
XX/XX/XXXX HH:MM:SS Info     00062 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.
XX/XX/XXXX HH:MM:SS Info     00062 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.
XX/XX/XXXX HH:MM:SS Info     00062 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.
---------- XXX entries left, Press Enter (or type 0 to quit) ------------
```

POINT

- マネジメントブレードで「Management Blade Wrap Around Event Log Enable」を「disable」に設定した場合、イベントログが最大件数になると、それ以後のログは記録されません。定期的に「Event Log」でログを確認し、必要に応じてログの保存／消去を行ってください。保存は画面のテキストをコピーして行ってください。

● 3. Server Blade Power On/Off Event Log Enable

サーバブレードの電源 ON/OFF やシャットダウンについて、マネジメントブレードのイベントログに記録するかどうか設定します。

－enable

サーバブレードの電源 ON/OFF やシャットダウンに関するイベントログを記録します。

－disable

サーバブレードの電源 ON/OFF やシャットダウンに関するイベントログを記録しません。

重 要

- この設定を「enable」にすると、イベントログが記録される件数が多くなります。イベントログの残りの件数に注意して、最大件数を超えないようにしてください。

● 4. Management Blade Wrap Around Event Log Enable

マネジメントブレードのイベントログが最大件数になったときのログ動作を設定します。

－Enabled（デフォルト値）

イベントログが最大件数になった場合、古いログから順番に上書きします。

－Disabled

イベントログが最大件数になった場合、ログ動作を停止します。

■ Set System Default（1_9）

マネジメントブレードの設定をデフォルト設定に戻します。

```
+-------------------------------------------+
|            Set System Default      page_1_9            |
+-------------------------------------------+

 (1)  Set Config Default            : false
 (2)  Set Username/Password Default : false
 (3)  Set CMOS Backup Default       : false
 (4)  Set Deployment Default        : false
 Enter selection or type (0) to quit:
```

● 1. Set Config Default

設定をデフォルトに戻します。ただし、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイはデフォルト設定に戻りません。また、Time Zone は（GMT+0）になります。必要に応じて変更してください。
デフォルトにするためには、「True」に設定したあとマネジメントブレードを再起動します。設定は、再起動後に有効になります。

● 2. Set Username/Password Default

ユーザ名とパスワードをデフォルトに戻します。
デフォルトにするためには、「True」に設定したあとマネジメントブレードを再起動します。設定は、再起動後に有効になります。

● 3. Set CMOS Backup Default

CMOS Backup 設定をデフォルトに戻します。
デフォルトにするためには、「True」に設定したあとマネジメントブレードを再起動します。設定は、再起動後に有効になります。

● 4. Set Deployment Default

Deployment 設定をデフォルトに戻します。
デフォルトにするためには、「True」に設定したあとマネジメントブレードを再起動します。設定は、再起動後に有効になります。

■ Server CMOS Backup/Restore（1_10）

サーバブレードの BIOS セットアップユーティリティによって設定された、CMOS 情報の退避／復元処理を行います。サーバブレードの電源を入れたあと POST が終了しなければ、操作できません。操作可能なサーバブレードは［Ready］と表示されます。
各サーバブレードの BIOS 情報の退避状況を表示します。退避されたデータがある場合には、［MAC アドレス , 日付 , BIOS 版数］が表示されます。
各サーバブレードを選択すると、Server CMOS Configure ページが表示されます。

```
     +-------------------------------------------+
     | Server Blade [Status][CMOS Backup File] Table   page_1_10 |
     +-------------------------------------------+

(1)  Server Blade_1   :[Ready     ][xx:xx:xx:xx:xx:xx,MM/DD/YYYY HH:MM:SS,xxxx]
(2)  Server Blade_2   :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(3)  Server Blade_3   :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(4)  Server Blade_4   :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(5)  Server Blade_5   :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(6)  Server Blade_6   :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(7)  Server Blade_7   :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(8)  Server Blade_8   :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(9)  Server Blade_9   :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(10) Server Blade_10 :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(11) Server Blade_11 :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(12) Server Blade_12 :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(13) Server Blade_13 :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(14) Server Blade_14 :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(15) Server Blade_15 :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(16) Server Blade_16 :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(17) Server Blade_17 :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(18) Server Blade_18 :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(19) Server Blade_19 :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
(20) Server Blade_20 :[Not Ready ][No Backup COMS File                      ]
Enter selection or type (0) to quit:
```

● Server CMOS Configure（1_10_1）

CMOS ファイルのバックアップ／リストアを行います。

```
+-------------------------------------------+
|          Server CMOS Configure      page_1_10_1          |
+-------------------------------------------+

 (1)  CMOS Control
 (2)  CMOS Configure Restore Target    : XX
 (-)  Server CMOS ID With BIOS Version : XXXX
 (-)  Server CMOS ID With Mac Address  : XX:XX:XX:XX:XX:XX
 (-)  Backup Date Time  : MM/DD/YYYY HH:MM:SS
 Enter selection or type (0) to quit:
```

- **1. CMOS Control**

```
+-------------------------------------------+
|       Page_1_10_1_1                                      |
+-------------------------------------------+

CMOS Control : unknown
(1) backup
(2) smart-restore
(3) force-restore
(0) quit
Enter selection :
```

・**1. backup**

選択したサーバブレードの BIOS 情報の退避を行います。

・**2. smart-restore**

このスロットで退避したデータを、「CMOS Configure Restore Target」で選択したスロット番号に搭載されているサーバブレードに対してスマートリストアを行います。BIOS 情報を退避したサーバブレードと復元対象のサーバブレードの MAC アドレスとスロット番号が合っている場合のみ、BIOS 情報の復元を行います。

・**3. force-restore**

このスロットで退避したデータを、「CMOS Configure Restore Target」で選択したスロット番号に搭載されているサーバブレードに対してフォースリストアを行います。BIOS 情報を退避したサーバブレードと復元対象のサーバブレードの MAC アドレスとスロット番号が合っていない場合でも、BIOS 情報の復元を強制的に行います。

重要

- CMOS 設定ファイルを退避したサーバブレードと復元先のサーバブレードのタイプが異なる場合、この機能は使用できません。また、BIOS 版数が異なる場合も使用できません。

- **2. CMOS Configure Restore Target（1_10_1_2）**
  復元対象となるサーバブレードのスロット番号設定を入力します。

```
+-------------------------------------------+
|        Page_1_10_1_2                      |
+-------------------------------------------+

 CMOS Configure Restore Target : 1
 Please Input New Value  (Press enter to quit)
 -->>
```

- **Server CMOS ID With BIOS Version**
  BIOS 情報を退避したサーバブレードの BIOS 版数を表示します。
- **Server CMOS ID With Mac Address**
  BIOS 情報を退避したサーバブレードの MAC アドレスを表示します。
- **Backup Date Time**
  サーバブレードから BIOS 情報を退避した日付を表示します。

重要

- BIOS セットアップユーティリティによって設定される情報のみを退避／復元することができます。オンボード IDE アレイコントローラの BIOS 情報については、退避／復元できません。
- 退避／復元の結果は、マネジメントブレードのイベントログに記録されます。

■ Deployment Parameter（1_11）

```
+-------------------------------------------+
|         Deployment Configuration      page_1_11         |
+-------------------------------------------+
 (1)  Server Blade_1
 (2)  Server Blade_2
 (3)  Server Blade_3
 (4)  Server Blade_4
 (5)  Server Blade_5
 (6)  Server Blade_6
 (7)  Server Blade_7
 (8)  Server Blade_8
 (9)  Server Blade_9
 (10) Server Blade_10
 (11) Server Blade_11
 (12) Server Blade_12
 (13) Server Blade_13
 (14) Server Blade_14
 (15) Server Blade_15
 (16) Server Blade_16
 (17) Server Blade_17
 (18) Server Blade_18
 (19) Server Blade_19
 (20) Server Blade_20
 Enter selection or type (0) to quit:
```

搭載されている各ブレードに対して、以下の Deployment 用パラメータを表示／設定します。

```
+-------------------------------------------+
|         Deployment Configuration      page_1_11_1       |
+-------------------------------------------+

 (-)  Chassis ID             : XX
 (-)  Solt  ID               : XX
 (-)  MAC Address_1          : XX:XX:XX:XX:XX:XX
 (-)  MAC Address_2          : XX:XX:XX:XX:XX:XX
 (5)  IP Address_1           : X.X.X.X
 (6)  IP Address_2           : X.X.X.X
 (7)  Subnet Mask_1          : X.X.X.X
 (8)  Subnet Mask_2          : X.X.X.X
 (9)  Default Gateway_1      : X.X.X.X
 (10) Default Gateway_2      : X.X.X.X
 (11) Hostname               : XX
 (12) Master Image Reference : XX
 (-)  Status of Blade        : XX
 (14) Automatic Recovery     : XX
 (-) States of Cloning      : XX
 (16) LAN status of slot     : XX
 Enter selection or type (0) to quit:
```

● Chassis ID

シャーシの ID を表示します。

● Slot ID

サーバブレードが搭載されているスロットを表示します。

● MAC Address_1

サーバブレードの LAN ポート 1 の MAC アドレスを表示します。

● MAC Address_2

サーバブレードの LAN ポート 2 の MAC アドレスを表示します。

● **5. IP Address 1**

サーバブレードの LAN ポート 1 の IP アドレスを設定します。

● **6. IP Address 2**

サーバブレードの LAN ポート 2 の IP アドレスを設定します。

● **7. Subnet Mask 1**

サーバブレードの LAN ポート 1 のサブネットマスクを設定します。

● **8. Subnet Mask 2**

サーバブレードの LAN ポート 2 のサブネットマスクを設定します。

● **9. Default Gateway 1**

サーバブレードの LAN ポート 1 のデフォルトゲートウェイを設定します。

● **10. Default Gateway 2**

サーバブレードの LAN ポート 2 のデフォルトゲートウェイを設定します。

● **11. Hostname**

ホストネームを設定します。

● **12. Master Image Reference**

マスタイメージのディレクトリを設定します。

● **Status of Blade**

サーバブレードの現在のステータスを表示します。

● **14. Automatic Recovery**

オートマティックリカバリ機能を有効にするかどうか設定します。

● **Status of Cloning**

クローニングのステータスを表示します。

● **16. LAN status of slot**

LAN ステータスを設定します。

重 要

- IP Address、Subnet Mask、Default Gateway、Hostname、MasterImageReference 等は ServerView 等のソフトウェアにより自動的に設定されます。各種の Deployment ソフトの操作上変更が必要な場合以外は、変更しないでください。

■ Power Consumption

使用しません。設定を行わないでください。

■ Modem Setting

使用しません。設定を行わないでください。

5.4.3 Console Redirection

マネジメントブレードから、サーバブレードとスイッチブレードのコンソールリダイレクションを行うことができます。サーバブレードは、POST 画面の表示や BIOS セットアップユーティリティの操作などを行います。スイッチブレードは、コンソールメニューの表示や操作を行います。

重 要

- コンソールリダイレクションは、搭載されている複数のサーバブレードおよびスイッチブレードに対して、それぞれ同時に 1 つしか使用することができません。

```
+-------------------------------------------+
|          Console Redirection Table      page_3          |
+-------------------------------------------+

 (1) Console Redirect Server Blade
 (2) Console Redirect Switch Blade
 (3) Set Return Hotkey , Ctrl+(a character) : Q
 Enter selection or type (0) to quit:
```

● 1. Console Redirect Server Blade（3_1）

サーバブレードのコンソールリダイレクションを行います。

```
+-------------------------------------------+
|        Console Redirect Server Blade      page_3_1        |
+-------------------------------------------+

 (1) Console Redirect Server Blade_1
 Enter selection or type (0) to quit:
```

搭載されているサーバブレードの 一覧が表示されます。
コンソールリダイレクションを行いたいサーバブレードを選択すると、コンソールリダイレクション画面が表示されます。
コンソールリダイレクションの画面からリターンホットキーを押すと、メニュー画面に戻ることができます（リターンホットキーについては「● Set Return Hotkey , Ctrl+（a character）」（→ P.114）を参照してください）。

POINT

- サーバブレードは、コンソールリダイレクションをサポートしています。コンソールリダイレクションは、テキスト画面に対してのみ行えます。グラフィックモードを使用した画面（日本語 DOS 環境を含む）は出力できません。
  コンソールリダイレクションは、マネジメントブレードと接続されたサーバブレードのシリアルポート A によって行われます。
  コンソールリダイレクション機能によって、BIOS の操作などの管理作業をマネジメントブレードの CLI から行うことができます。
  コンソールリダイレクションに使用するエミュレート端末は基本 ASCII 文字列のみに限られており、矢印キーやファンクションキー、【Ctrl】キーはありません。しかし、BIOS 設定などでは通常のキー入力として必要になります。特殊なキー入力（エスケープシーケンス）を行うと、これらのキー入力が可能になります。

キー	エスケープシーケンス
【F1】	【ESC】【1】
【F2】	【ESC】【2】
【F3】	【ESC】【3】
【F4】	【ESC】【4】
【F5】	【ESC】【5】
【F6】	【ESC】【6】
【F7】	【ESC】【7】
【F8】	【ESC】【8】
【F9】	【ESC】【9】
【F10】	【ESC】【0】
【F11】	【ESC】【!】
【F12】	【ESC】【@】
【Home】	【ESC】【h】
【End】	【ESC】【k】
【Ins】	【ESC】【+】
【Del】	【ESC】【-】
【Page Up】	【ESC】【?】
【Page Down】	【ESC】【/】
【↑】	【ESC】【[】【A】
【↓】	【ESC】【[】【B】
【→】	【ESC】【[】【C】
【←】	【ESC】【[】【D】
【Shift】【Tab】	【ESC】【[】【Z】
【Reset】	【ESC】【Del】または 【ESC】【Ctrl】+【BackSpace】

● 2. Console Redirect Switch Blade（3_2）

スイッチブレードのコンソールリダイレクションを行います。

```
+-------------------------------------------+
|        Console Redirect Switch Blade      page_3_2      |
+-------------------------------------------+

 (1) Console Redirect Switch Blade_1
 Enter selection or type (0) to quit:
```

搭載されているスイッチブレードの一覧が表示されます。
コンソールリダイレクションを行いたいスイッチブレードを選択すると、コンソール画面が表示されます。
コンソールリダイレクションの画面からリターンホットキーを押すと、メニュー画面に戻ることができます（リターンホットキーについては「● Set Return Hotkey , Ctrl+（a character）」（→ P.114）を参照してください）。

POINT

- スイッチブレードは、コンソール管理インタフェースをサポートしています。このメニューからアクセスできます。

● Set Return Hotkey , Ctrl+（a character）

コンソールリダイレクション画面でリターンホットキー「【Ctrl】キー＋【(使用する文字)】キー」を入力すると、CLI の画面に戻ることができます。
ここではリターンホットキーで使用する文字キーを設定します。初期値は「Q」です。
変更する場合は、選択後にリターンホットキーとして使用する文字キーを入力します。
使用する文字キーは、【M】キーを除く【A】から【Z】までの文字キーを設定してください。

5.4.4 Logout

ログアウトしてログオン画面に戻ります。

5.4.5 Reboot

マネジメントブレードの再起動を行います。

```
+-------------------------------------------+
|    Reboot Selection: [1] Yes  or  [0] No       page_6    |
+-------------------------------------------+

 (1) Yes,Reboot Now!
 Enter selection or type (0) to quit:
```

（1）を選択すると以下の画面が表示され、マネジメントブレードが再起動します。

```
+-------------------------------------------+
|         Management Blade Reboot Now!      page_6_1       |
+-------------------------------------------+
```

POINT

- マネジメントブレードの再起動を行うと、サーバブレードの KVM の選択や LAN インタフェースの接続（Web UI、Telnet など）はいったん解除されます。操作を続ける場合はマネジメントブレードの起動が終了したあと、再度操作を行ってください。
- マネジメントブレードの再起動を行っても、メイン電源およびサーバブレードの電源状態は保持されます。
- マネジメントブレードが冗長構成の場合に再起動を行うと、マネジメントブレードのマスタとスレーブが切り替わります。CLI に LAN インタフェースで接続している場合には、いったん接続が切れるので再度接続してください。
  シリアルインタフェースで接続している場合には、「5.3 マネジメントブレードの起動およびログオン」（→ P.59）を参照して、マスタに接続し直してください。
- 冗長構成時に片側のマネジメントブレードが故障している場合は、再起動は行えません。故障しているマネジメントブレードを交換してください。

第 6 章

技術情報

この章では、マネジメントブレードの仕様および運用上の留意点について説明しています。

6.1　仕様 118
6.2　リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項 119
6.3　留意事項 120

6.1 仕様

本製品の仕様は以下のとおりです。

項目	概要
品名	マネジメントブレード
型名	PG-MB101/PG-MB102
外部インタフェース	LAN（10Base-T：全二重固定）× 1、 シリアル× 1
外形寸法（長さ×幅×高さ）	275 × 75 × 26 mm
質量	約 0.4kg
使用環境条件	シャーシ本体の使用環境条件と同様

6.2　リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項

6.2.1　リモート電源切断について

マネジメントブレードには、シャーシやサーバブレードの電源を Web UI や CLI からリモートで切る機能があります。
この機能を使用する場合は、以下の事項について注意してください。

- シャーシのメイン電源をリモートで切る場合は、シャーシに搭載されているサーバブレードの電源がすべて切れていることを確認してから行ってください。サーバブレードが動作していると動作中のシステムが破壊されるおそれがあります。
- サーバブレードの電源切断を指示するときは、サーバブレード上で OS を終了してから行ってください。

6.2.2　graceful シャットダウン機能について

メイン電源に対する「graceful shutdown」指示やサーバブレード電源に対する「off」指示など graceful シャットダウン機能を使用してサーバブレードをシャットダウンする場合には、サーバブレードに対して以下の対応が必要になります。

BMC ファームウェアの版数	ServerView のバージョン
3C03 以降 （3AXX には対応していません）	・V3.32 （BIOS / BMC 版数が 3C04 / 3C03 の場合） ・V3.40 以降 （BIOS / BMC 版数が 3D01 / 3D01 以降の場合）

POINT

- BIOS / BMC のファーム版数は、BIOS 画面、WEB UI（→「● Blade Info グループ」（P.51））、CLI（→「● 2. Server Blade Information（1_4_1_2）」（P.91））で確認できます。

重 要

- 対応していないサーバブレードに対して、graceful シャットダウンを指示しないでください。
ACPI シャットダウンや強制電源切断でシャットダウンしてしまい、システムが破壊されるおそれがあります。

6.3 留意事項

マネジメントブレード使用上の留意事項を以下に示します。

■ 電源ケーブル取り外し時に記録されるイベントログの注意事項

シャーシから電源ケーブルを取り外したあと、マネジメントブレードのイベントログに以下のログが記録されますが、ケーブルを取り外したことによるログですので無視してください。

```
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Critical 49198 System overall status is critical.
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Major    32796 Power supply unit X is error.
（Xは電源ユニット番号）
```

索引

あ

アラームハンドラ 28, 31

い

イベントログ 28, 31, 104

え

遠隔操作 22

か

管理ソフト 14
管理端末 12, 14
管理ユーザの設定 17

け

ゲートウェイの設定 39, 64, 111

こ

コネクタ
　シャーシ接続用コネクタ 9
　シリアルポートコネクタ 9
　10BASE-T コネクタ 9
コンソールメニュー 61
コンソールリダイレクション 112

さ

サーバブレード 8, 47, 112
サブネットマスク 16
　設定 111, 39

し

システムファンユニット 8, 28, 76
シャーシ 12, 28, 36
ジャンパピン 9
状態監視 22
初期設定 14
シリアルインタフェース 8, 56
　設定 16

す

スイッチブレード 8, 46, 101, 114

て

デフォルト値 16, 39, 106
電源ユニット 8, 28, 34, 76

は

パスワード 14, 43, 107
　設定 103
　変更 29

ふ

ファン 37
フロントファンユニット 36

ま

マネジメントブレード 8, 45
マネジメントブレード異常ランプ 9
マネジメントブレードマスタ表示ランプ 9

ゆ

ユーザの追加 29, 103
ユーザ名 14, 43, 107

り

リアファンユニット 36
リターンホットキー 114
留意事項 120

ろ

ログアウト 114
ログオン 26, 59

B

BIOS 版数 109

C

CLI 14
　使用方法 56
CLI からのパスワードの変更 17

D

DHCP 39

H

HTTP 29, 39, 65

I

Internet Explorer 26
IP アドレス 16, 26
　設定 29, 39, 63, 111
　表示 97

L

LAN アクティブランプ 9
LAN インタフェース 8, 57
　設定 15
LAN リンクランプ 9

M

MAC アドレスの表示. 75, 98, 109, 110

N

Netscape 26

P

PXE（Preboot eXecution Environment）
. . . . . 23, 51, 90

R

RemoteControlService. 22, 56

S

ServerView 22
SNMP 8, 29, 41, 66
SNMP コミュニティ名 29, 67
SNMP トラップ. 29, 67
SystemcastWizard Professional. 22

T

Telnet. 56
　設定 29, 39, 68

W

Web UI. 14, 26
Web UI からのパスワードの変更. 17

PRIMERGY BX300

ハードウェアガイド マネジメントブレード編
B7FH-2411-01-00

発 行 日　2004 年 1 月
発行責任　富士通株式会社

●本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。